

奈良県感染症発生動向調査事業報告

令和4年 内科・小児科感染症の概要

1. 令和4年の流行状況（定点当たり）

令和4年(1月～12月の合計)の定点当たり報告数[報告実数]は、多い順から①感染性胃腸炎(170.32)[5,791人]、②RSウイルス感染症(49.21)[1,673人]、③手足口病(32.62)[1,109人]、④突発性発しん(14.21)[483人]、⑤咽頭結膜熱(7.21)[245人]、⑥A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(6.85)[233人]、⑦ヘルパンギーナ(5.85)[199人]、⑧水痘(3.50)[119人]、⑨インフルエンザ(2.65)[146人]、⑩流行性耳下腺炎(0.88)[30人]、⑪伝染性紅斑(0.24)[8人]であった。

2. 地区別（保健所別）での報告数（定点当たり）の状況（県平均との比較）

地区別(保健所別)で県平均以上の報告数があった疾病は、奈良市保健所(5疾患)：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑、突発性発しん、流行性耳下腺炎、郡山保健所(5疾患)：インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、中和保健所(東)(4疾患)：RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、中和保健所(西)(7疾患)：(東)の4疾患に加え、感染性胃腸炎、水痘、突発性発しん、吉野保健所(4疾患)：インフルエンザ、咽頭結膜熱、水痘、伝染性紅斑であった。

3. 月別の発生状況（定点当たり）

各疾病の月別流行状況を見てみると、1月が最多であった疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2.03(69人)の1疾患であった。2月から5月は最多であった疾患はなかった。6月(4疾患)は咽頭結膜熱 2.24(76人)、感染性胃腸炎 30.18(1,026人)、突発性発しん 1.91(65人)、流行性耳下腺炎 0.35(12人)、7月(2疾患)はRSウイルス感染症 16.26(553人)、伝染性紅斑 0.06(2人)、8月(0疾患)、9月(3疾患)は水痘 0.56(19人)、手足口病 8.94(304人)、ヘルパンギーナ 1.38(47人)、10月(0疾患)、11月(1疾患)は水痘 0.56(19人)(=9月と同数)、12月(2疾患)はインフルエンザ 1.89(104人)、水痘 0.56(19人)(=9月と同数)であった。

4. 世代別（1歳平均）での報告数（実数）の状況

乳児期[0歳]が最多であった疾患は、突発性発しん(131.0人)の1疾患であった。幼児期[1～5歳]が最多であった疾患は、RSウイルス感染症(276.8人)、咽頭結膜熱(41.4人)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(30.0人)、感染性胃腸炎(699.4人)、水痘(10.0人)、手足口病(201.8人)、伝染性紅斑(0.8人)、ヘルパンギーナ(35.2人)の8疾患であった。学童期[6～14歳]が最多であった疾患は、インフルエンザ(6.8人)、流行性耳下腺炎(2.3人)の2疾患であった。思春期[15～19歳]、成人期[20～59歳]、老齢期[60歳～]が最多の疾患はなかった。

柳生 善彦 記

インフルエンザ定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

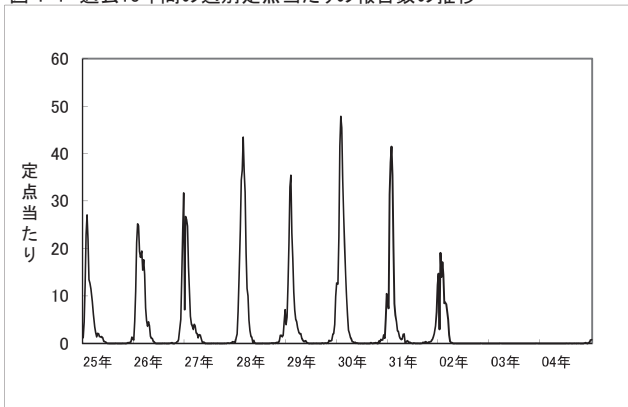


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

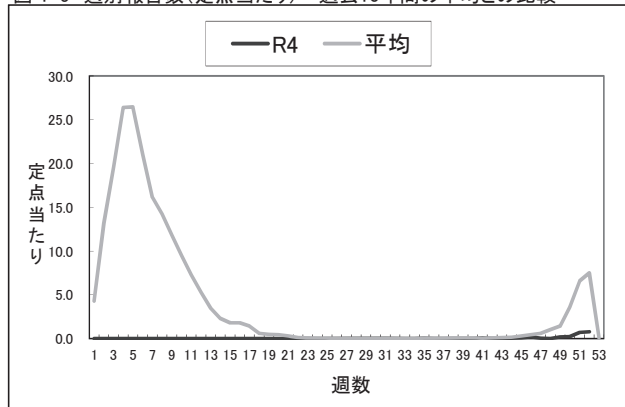


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

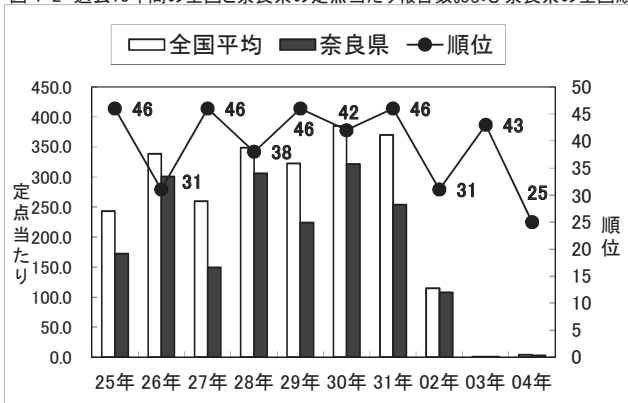


図 1-6 年齢別報告数(実数)

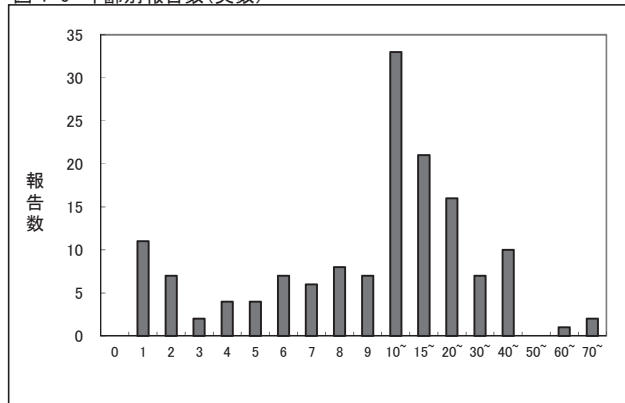
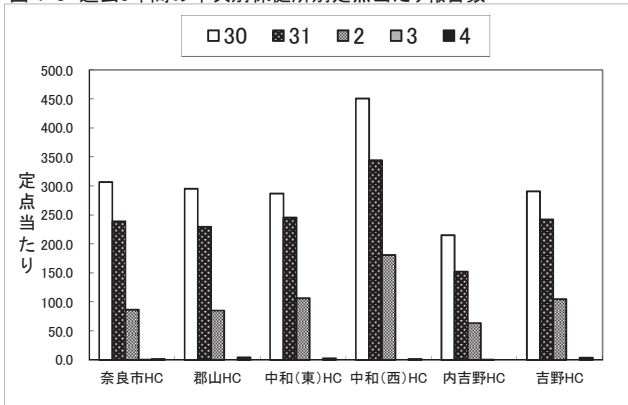
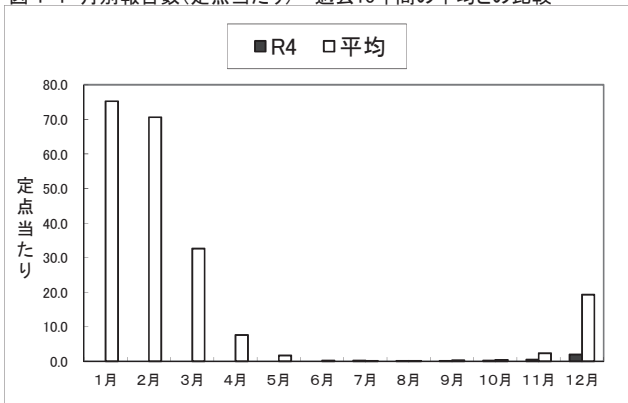


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・令和3年に引き続き、コロナ禍のなかで、当県におけるインフルエンザ感染症報告数は過去10年間のなかでも顕著に少ない状態であった。

・都道府県別比較では全国の中央値付近であり、同感染症報告数が少ないのは、全国的傾向である。保健所地区別では、すべての保健所管内で報告数が著明に少なく、地区別の有意差はコメントできない。

・月別の傾向は読み取りにくいですが、冬季为好発時期のようであり、その他の追加すべき特記事項はない。

・年齢別内訳では、10代を中心とした若年層为好発年代であった。

(鈴木 滋生 記)

小兒科定点分

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

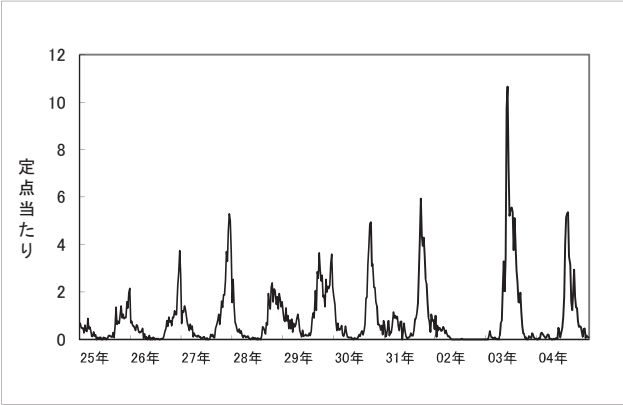


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

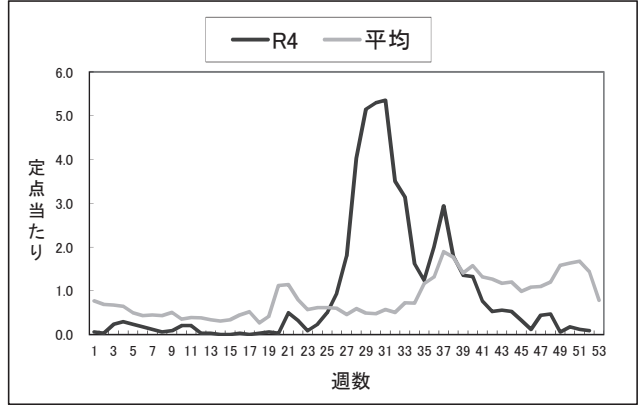


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

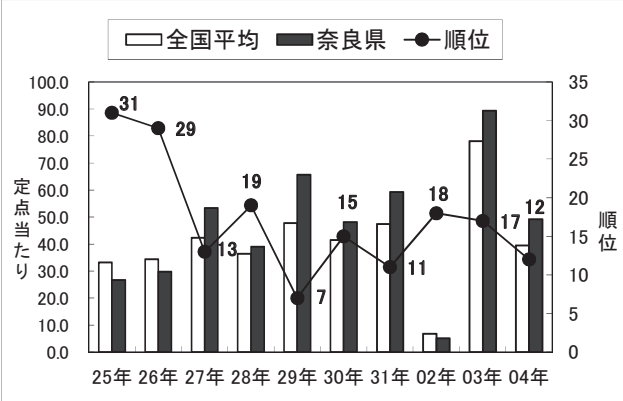


図 2-6 年齢別報告数(実数)

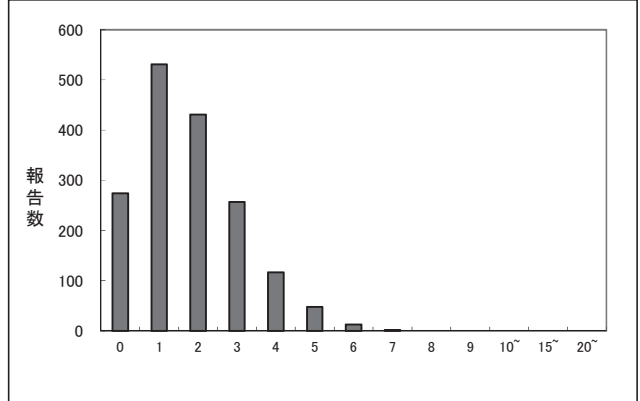
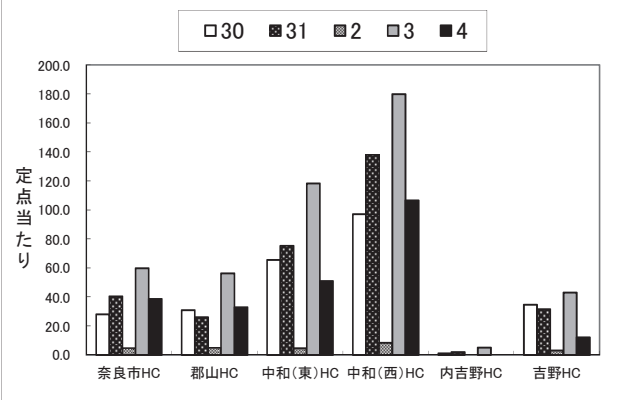
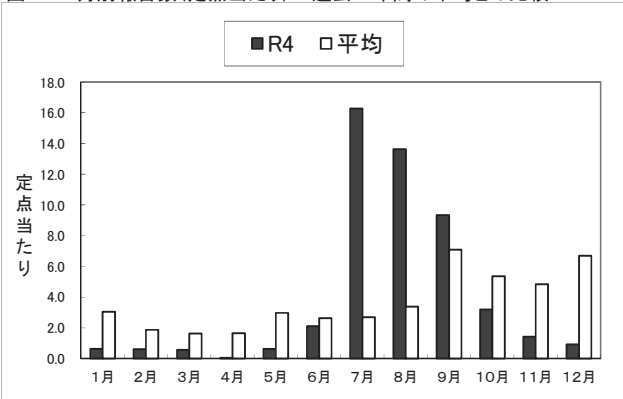


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

- ・当県での令和4年の定点報告数は、過去10年間の平均レベル付近であった。
- ・都道府県別比較では全国12位であり、全国の平均報告数を少し上回っている。
- ・保健所地区別では、例年の傾向と同様に中和保健所管内で相対的に多い。
- ・月別報告数の最頻値は7月であり、秋季～冬季に好発する例年の傾向と異なっていることは着目すべき点であろう。
- ・また年齢別内訳からは、乳幼児が好発対象であり、高齢化が進んでいる吉野地区では顕著に報告数が少ない。

(鈴木 滋生 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

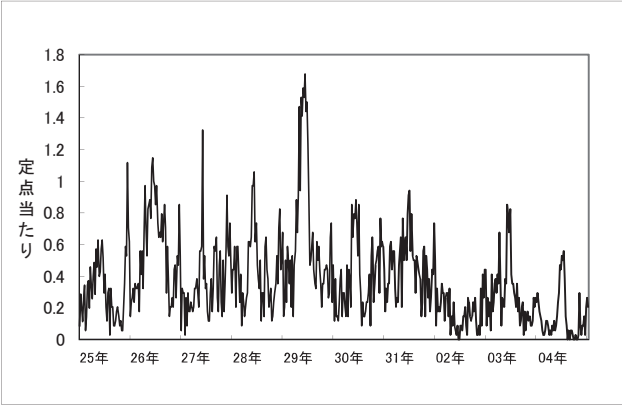


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

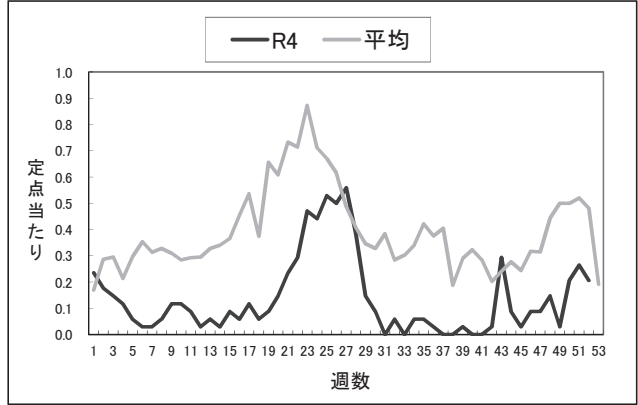


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

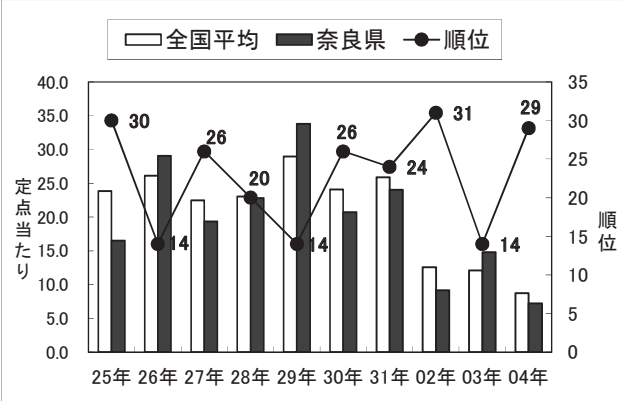


図 3-6 年齢別報告数(実数)

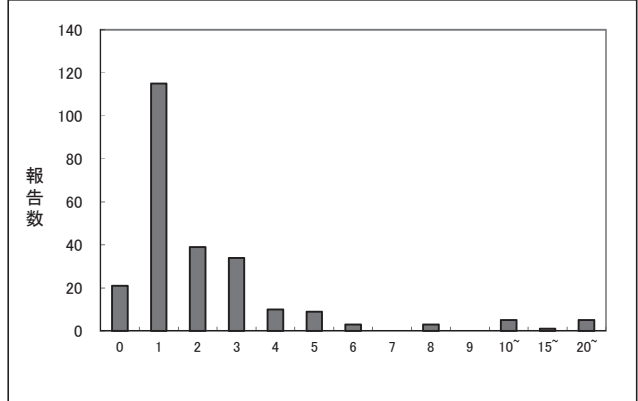
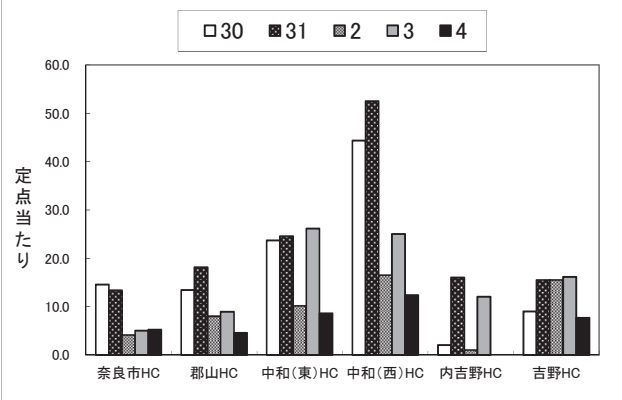
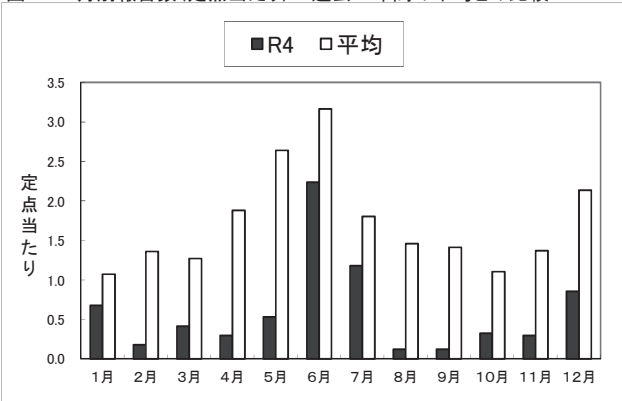


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

- ・過去10年間での比較のなかで、令和4年の定点報告数は、相対的にやや少ない印象。
- ・都道府県別比較でも、全国平均値の報告数よりもやや少ない。
- ・保健所地区別では、例年の傾向と同様に、中和保健所管内で報告数が相対的に多い。
- ・月別報告数の最頻値は6月であり、過去10年間と同様に初夏が相対的に好発時期の印象である。
- ・当県での年齢別報告数では、乳幼児が好発年齢対象であり、学童期の報告数は目立たない。

(鈴木 滋生 記)

4.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

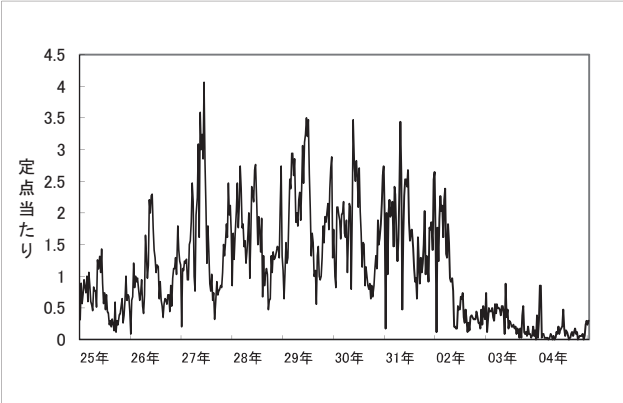


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

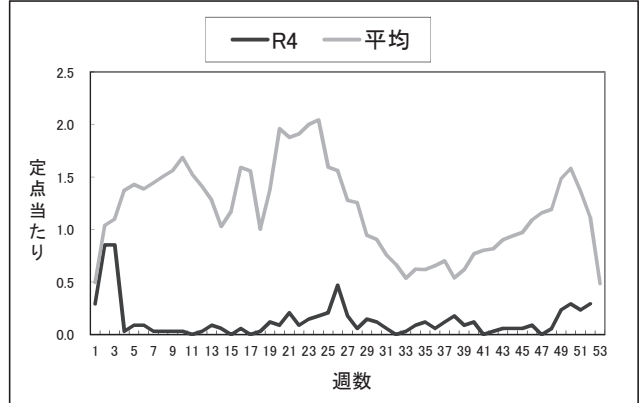


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

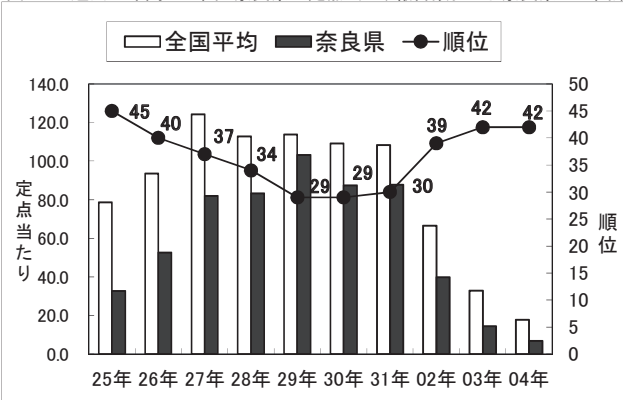


図 4-6 年齢別報告数(実数)

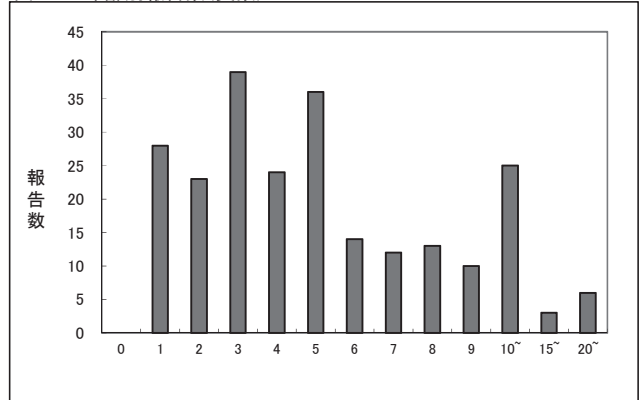
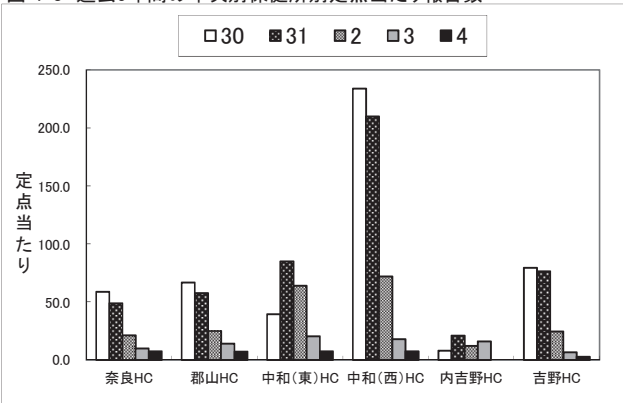
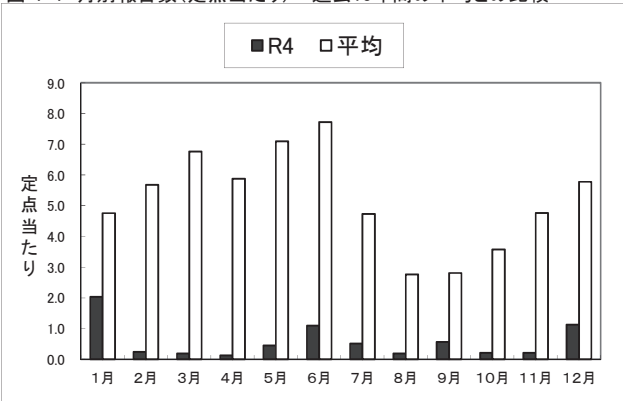


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年における全報告数は233例、定点あたり6.85で、前年の半数以下で、過去10年間では最も少ない。全国でも定点あたり報告数(17.76)は前年(32.89)の約半分となっている。COVID-19感染拡大防止のための飛沫感染予防策が報告数減少に繋がったと思われる。

保健所別定点あたりの報告数は、全数が少ないため吉野保健所以外はほぼ同じで差が見えにくくなっている。

月別定点あたり報告数、週別定点あたり報告数は、過去10年間で大幅に下回り、春から夏にかけてと冬の二峰性にみられていたピークが冬と初夏の小ピークにとどまっている。

年齢別実報告数では3歳をピーク(39例)に分布、例年通り0~9歳で全体の85%を占めていた。

令和4年は、COVID-19オミクロン株流行期にあたり、COVID-19に対する飛沫感染防止策の徹底が、感染経路が同じ本疾患の感染予防、感染拡大防止に功を奏したと考えられる。

(水野 文子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

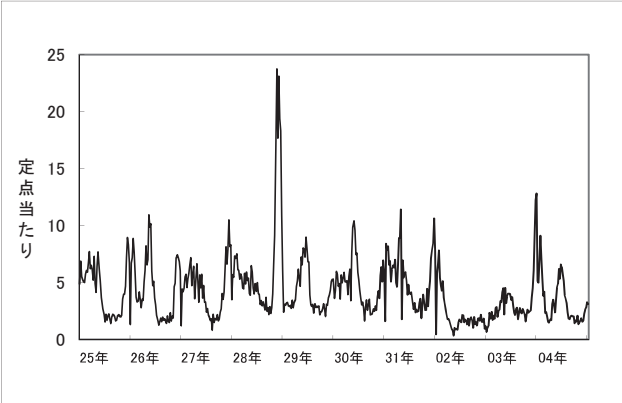


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

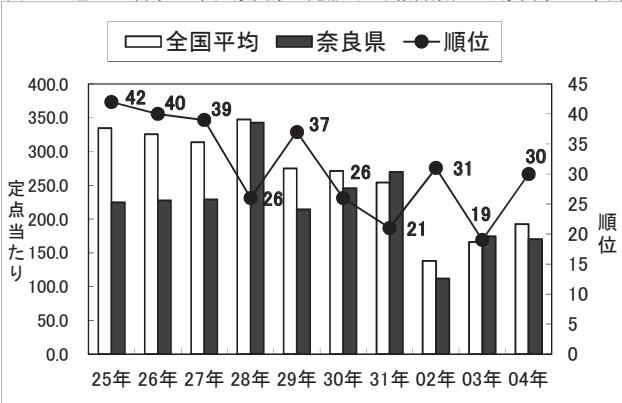
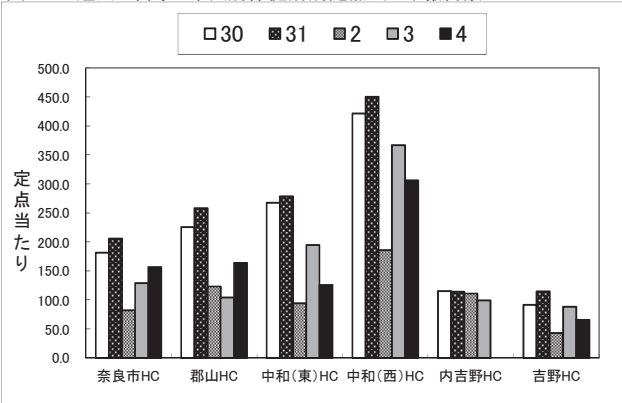


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

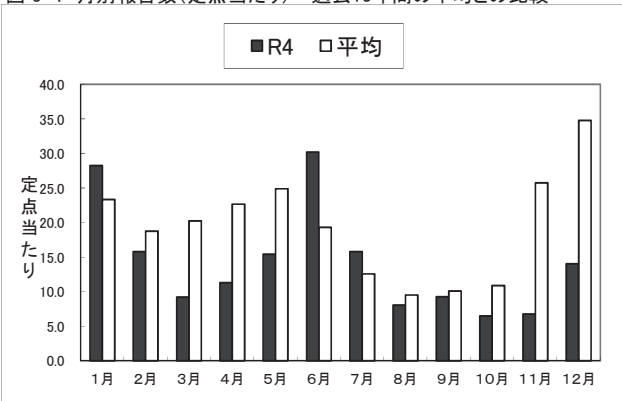


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

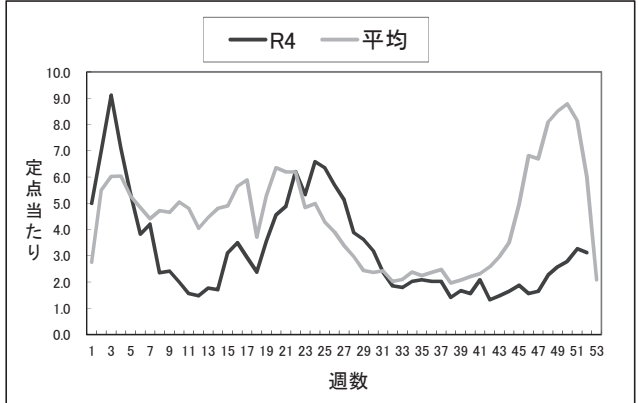
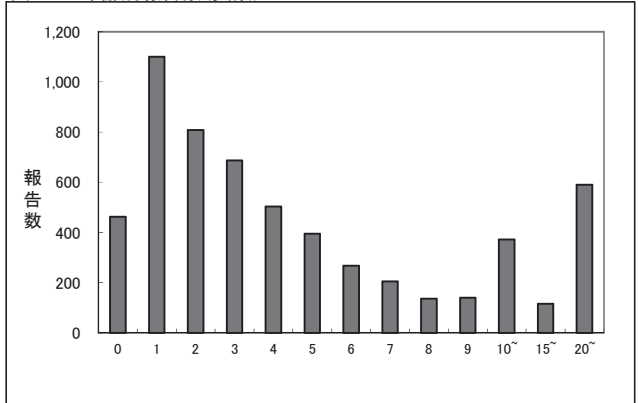


図 5-6 年齢別報告数(実数)



コメント

令和4年における全報告数は5791例、定点あたり170.32で、令和3年とほぼ同じであったが、全国平均を下回った(全国順位19位→30位)。全国的に令和2年に過去最低になった後、徐々に増加傾向になっている。

保健所別定点あたり報告数は中和(西)が最多、中和は東・西とも昨年より減少したが、奈良市、郡山では増加した。

月別定点当たり報告数、週別定点当たり報告数とも、過去10年間は11月(45週)頃からのピーク、その後6月(25週)辺りまではやや報告数が多い状況が続いているが、令和4年は1月と6月ごろの二峰性を示し、8月(33週)以降は少ない報告数で推移し、例年見られる11月のピークは認められなかった。

年齢別の実報告数は、例年と同様1歳(1101例)が最多で、0歳(463例)、2歳(809例)、3歳(687例)、4歳(504例)、5歳(396例)の乳幼児期で全体の68%を占めている。

新型コロナウイルス感染症流行に伴う感染防止策や外出自粛により、感染症胃腸炎も令和2年は過去最低まで減少していたが、社会経済活動が徐々に再開され、令和3年以降、全国的に増加傾向にある。

保健研究センターによるウイルス検出状況では、感染性胃腸炎患者は、2月受付分(令和3年12月採取検体)の4例中3例でノロウイルスG II、3月検体採取分の1例はアデノウイルス41型が検出されていた。

令和2年11月からロタウイルスワクチン接種が始まっているが、全国的にはノロウイルスの他、アデノウイルス、サボウイルスなどもたびたび検出されており、県内でも腸管アデノウイルス(41型)が検出されるなど、ワクチンの効果は限定的になるのかもしれない。

(水野 文子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

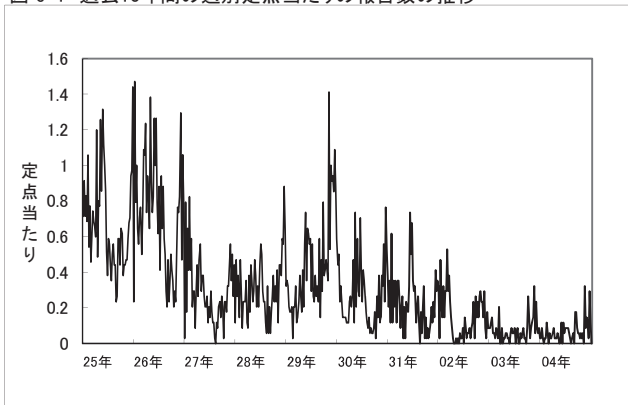


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

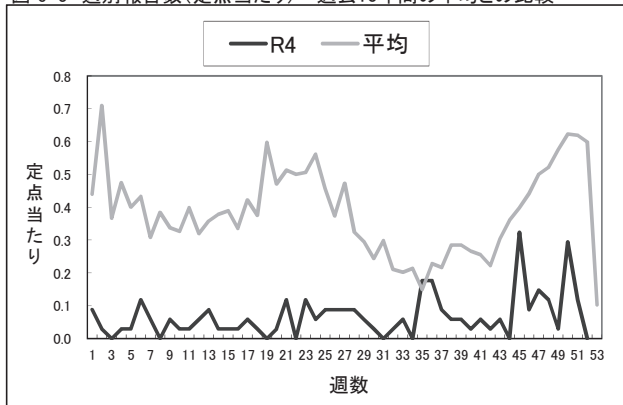


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

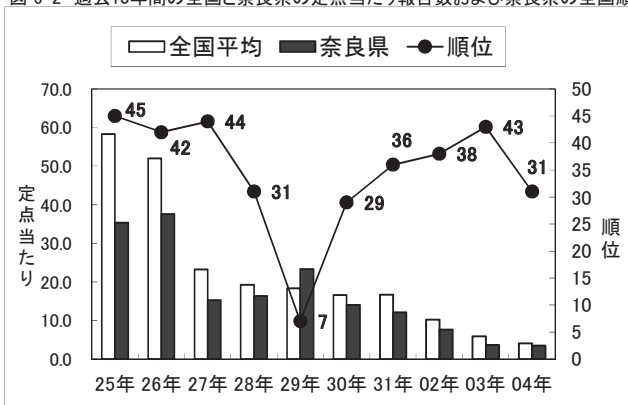


図 6-6 年齢別報告数(実数)

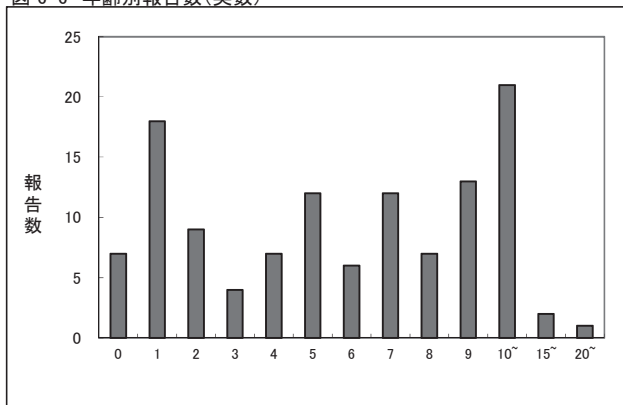
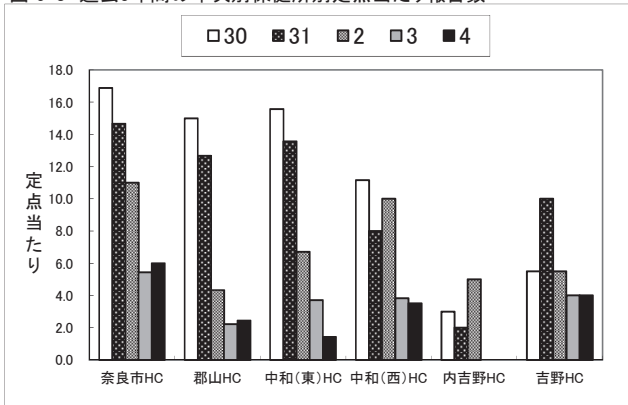
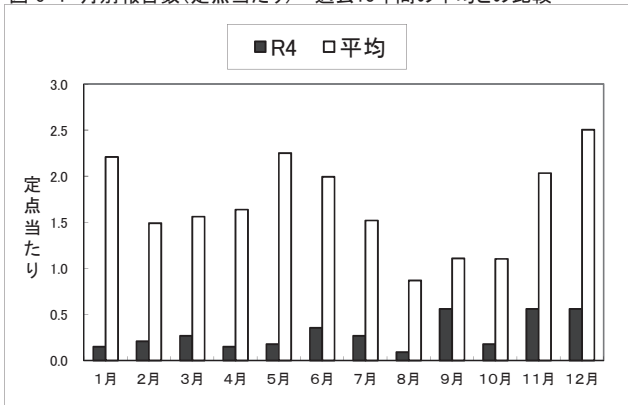


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年における全報告数は119例、定点当たり報告数は3.5(全国4.06)で前年より減少しているが、全国平均がより減少しているため、過去10年間の定点当たり報告数での順位は上がっている(43位→31位)。

保健所別定点当たりの報告数は、中和(東)で前年の半数以下になった以外は、前年と同じかやや増加している。

月別定点当たり報告数は、9、11、12月にやや多く、週別定点あたり報告数も、秋から初冬にかけやや多かった。
水痘ワクチン接種の予防効果と新型コロナウイルス感染症に対する飛沫感染予防策が発生数減少に繋がったと考えられる。

年齢別の実報告数は、9歳までは昨年よりややばらついているが、1歳(18例)以外は15例未満、COVID-19感染不安からのワクチン接種控えがバラツキに影響を与えている可能性もある。1回接種児の breakthrough varicella発症を避けるためにも2回目接種の完了が望まれる。

また、带状疱疹患者の増加に伴い、父母・祖父母世代の带状疱疹患者から、ワクチン未接種児やワクチンの定期接種機会がなかった世代が罹患したと考えられる事例も報告されており、2回の水痘ワクチン接種の徹底に加えて、带状疱疹発症予防対策も望まれる。

(水野 文子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

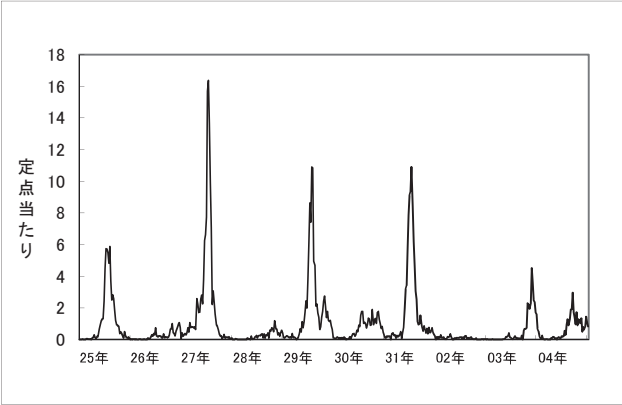


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

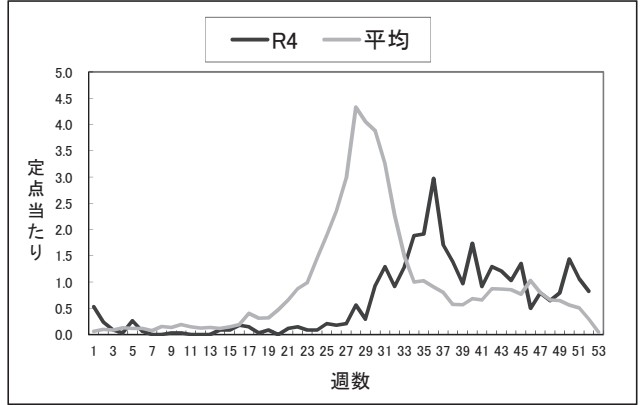


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

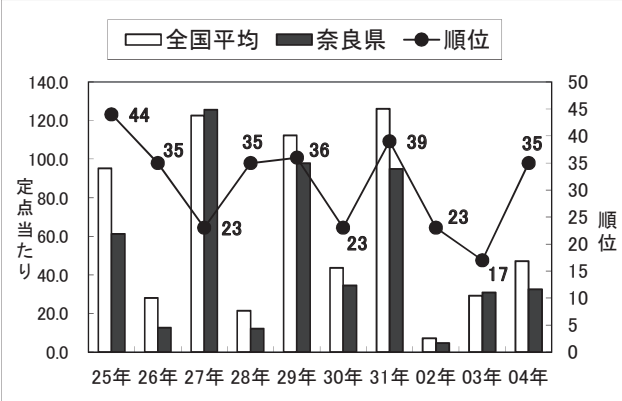


図 7-6 年齢別報告数(実数)

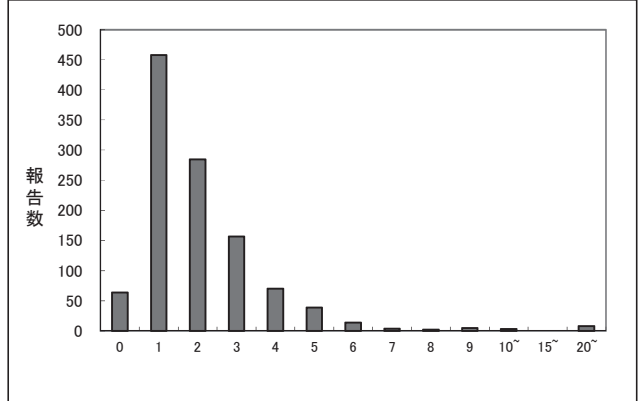
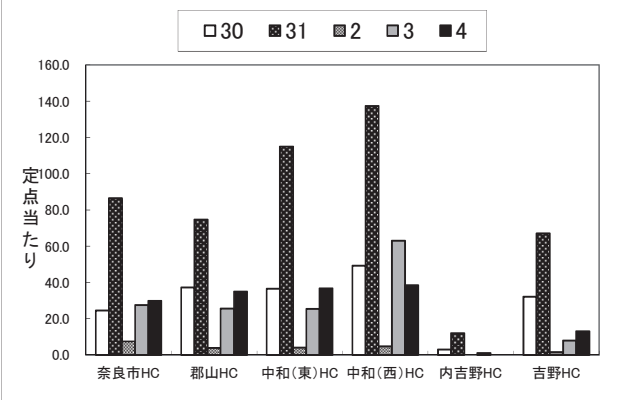
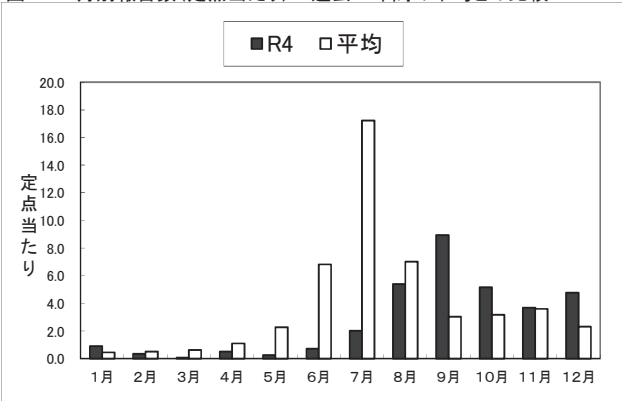


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年の手足口病の報告総数は例年よりも少ない状態であった。週数は過去10年間で第28週がピークである事に対して、ピークは第36週と発生時期は後ろにずれていた。年齢層は大方が5歳以下であった。地域差は特に認められてはいない。
保健研究センターによるウイルス検出状況では、手足口病患者は、検査依頼が1例(令和3年12月採取分)あり、ライノウイルスCを検出した。

(宇野 健司 記)

8.伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

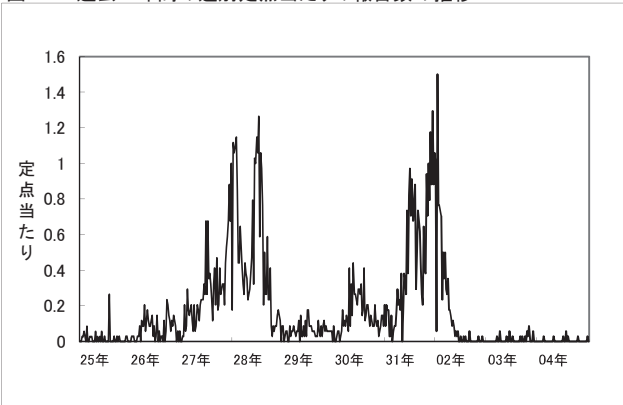


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

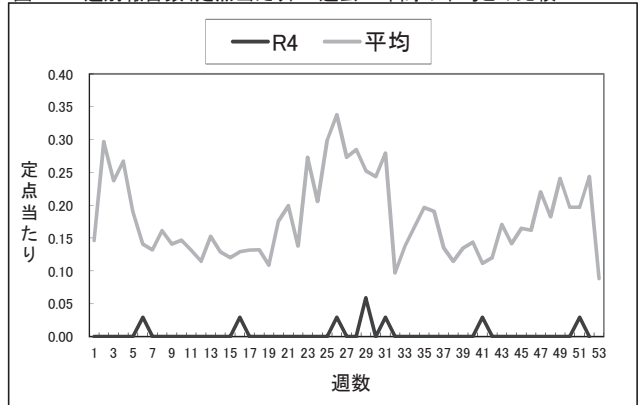


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

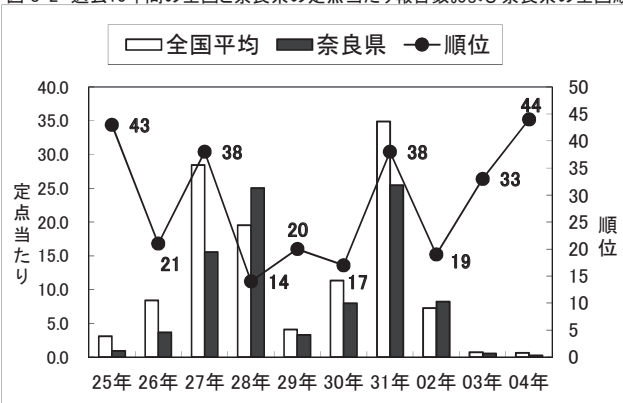


図 8-6 年齢別報告数(実数)

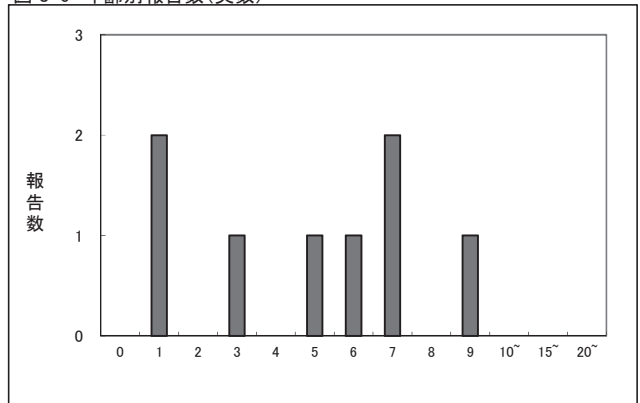
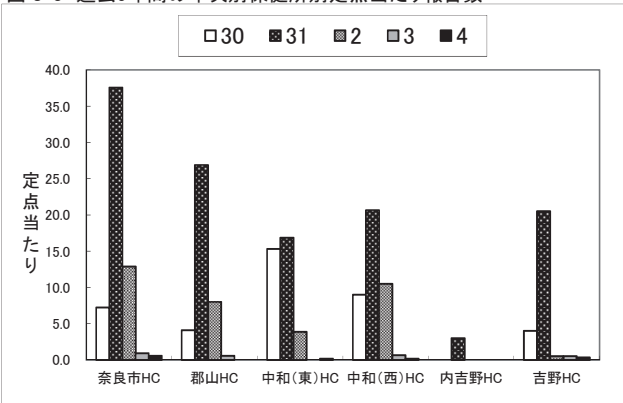
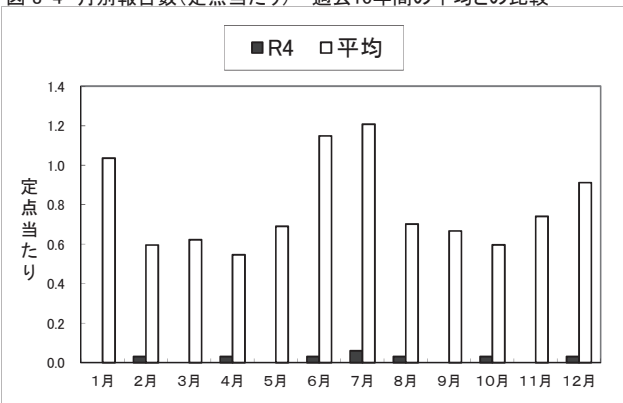


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

例年と比較し、令和4年における伝染性紅斑の発生数は令和2年・3年と同じく激減していた。これはCOVID-19流行に伴う飛沫感染対策、接触感染対策が伝染性紅斑の流行を減らした事を示唆している。
地域差、及び月別で明らかな傾向は確認されなかった。好発年齢は10歳未満であった。これらの傾向は報告の絶対数が少ないため特異的な傾向を示しているとは考えにくい。
伝染性紅斑は主にヒトパルボウイルスB19による感染症である。ヒトパルボウイルスは赤芽球前駆細胞に感染し破壊する事が有るため、妊婦が初感染で胎児まで感染が及んだ場合、胎児の赤血球は減少し重症胎児貧血による胎児水腫が原因で死産に至る可能性がある。また、流産や子宮内胎児発育遅延の原因にもなり、特に家庭内に好発年齢がいる妊婦は細心の注意を要する。

(宇野 健司 記)

9.突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

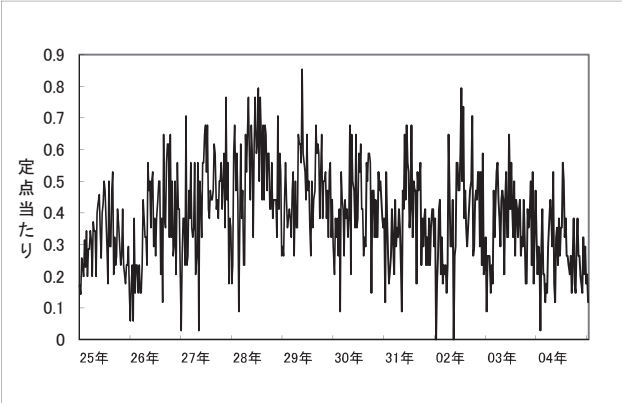


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

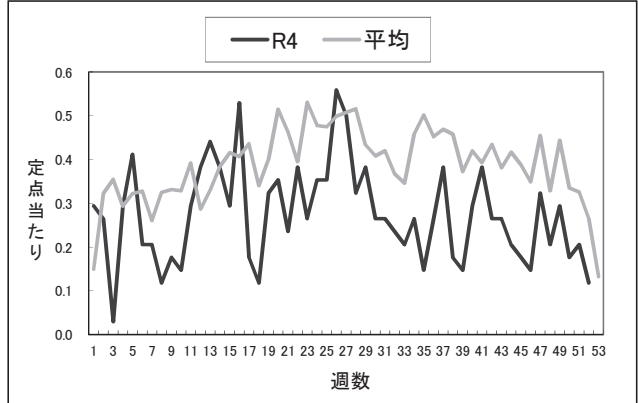


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

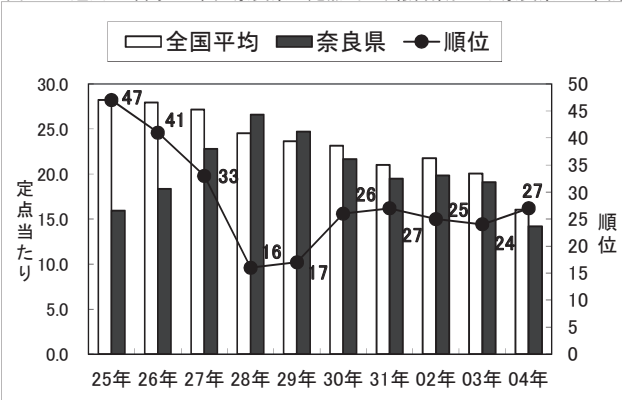


図 9-6 年齢別報告数(実数)

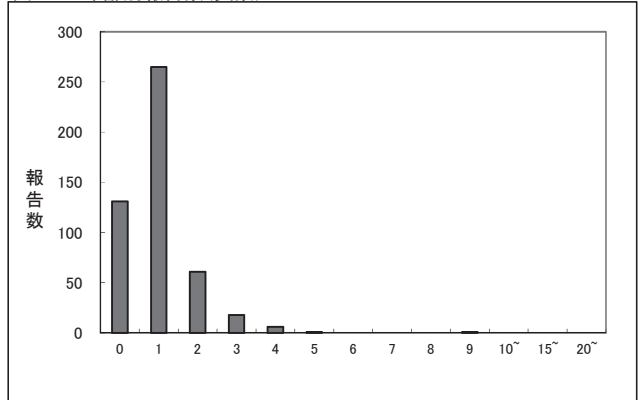
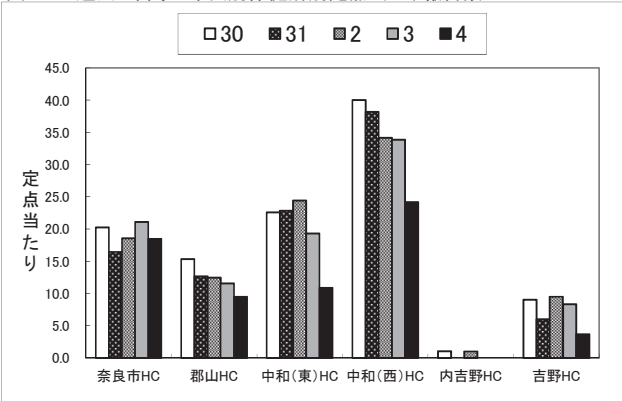
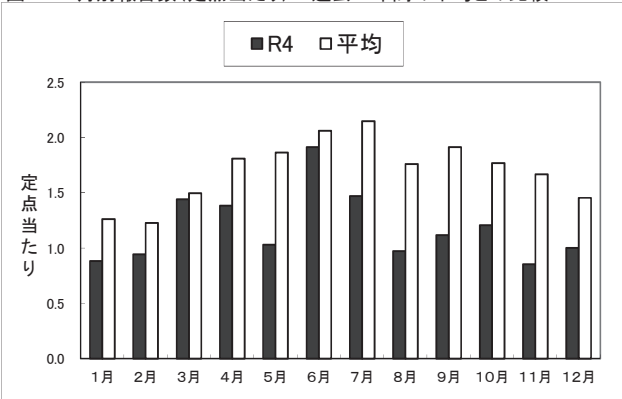


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年における定点当たりの報告数は14.2(全国平均16.1)で、伝染性紅斑、手足口病と異なり例年とほぼ同じような発生数を示した。週別の定点当たりの発生数も例年とほぼ変化はなく、好発年齢も4歳以下と例年と変化はなかった。保健所別での定点当たりの報告数も例年とほぼ変化はなかった。

これは、手足口病の原因ウイルスであるコクサッキーやエンテロウイルスと突発性発疹の原因ウイルスであるHHV-6やHHV-7は同じ接触感染・飛沫感染の感染経路を持つが、HHV-6あるいはHHV-7が外的な流行というよりも家族内での感染が考えられる。

HHV-6はそもそも成人では唾液から分泌されている事が報告されており(Human herpesvirus 6: An emerging pathogen. Emerg Infect Dis. 1999; 5(3):353-366.)、親から子への伝播が疑われる。症状は一定の割合で顕在化すると考えられ、それによってCOVID-19でも変わりない発生数であったと考えられる。

なお、保健研究センターによるウイルス検出状況では、8月に突発性発疹患者の依頼が1例あり、サイトメガロウイルスを検出した。

(宇野 健司 記)

10.ヘルパンギーナ

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

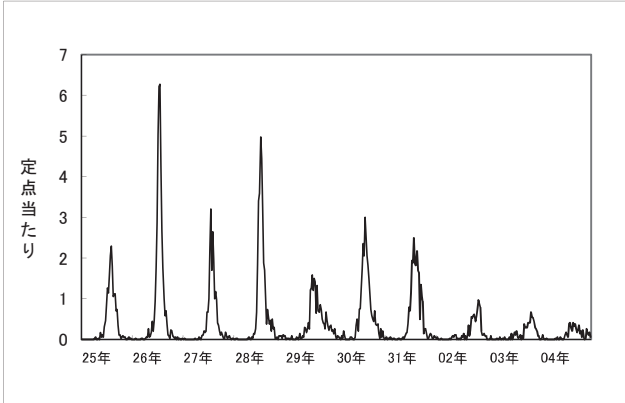


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

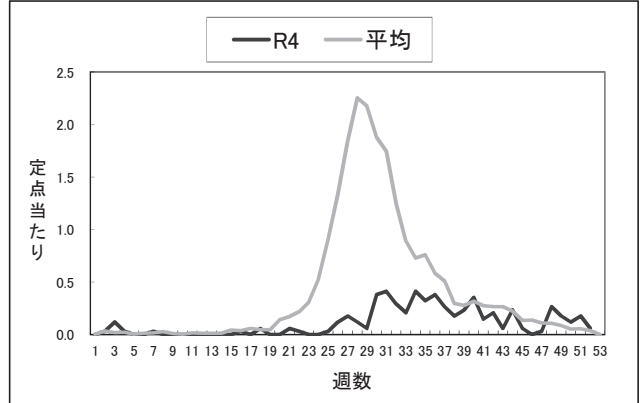


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

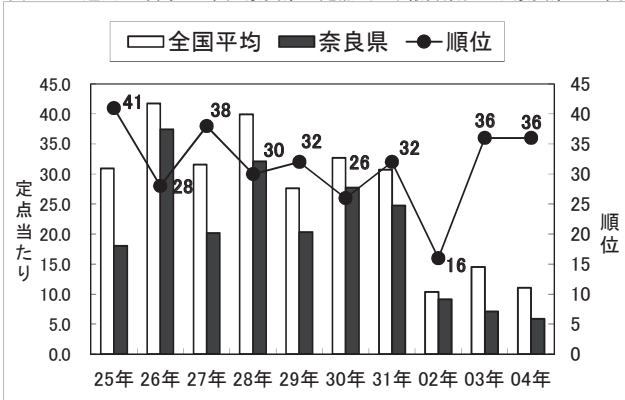


図 10-6 年齢別報告数(実数)

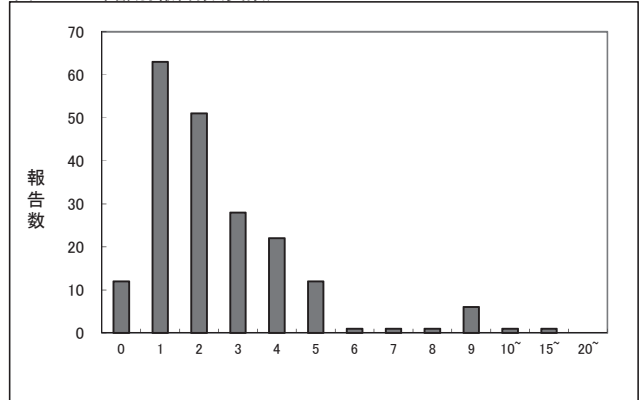
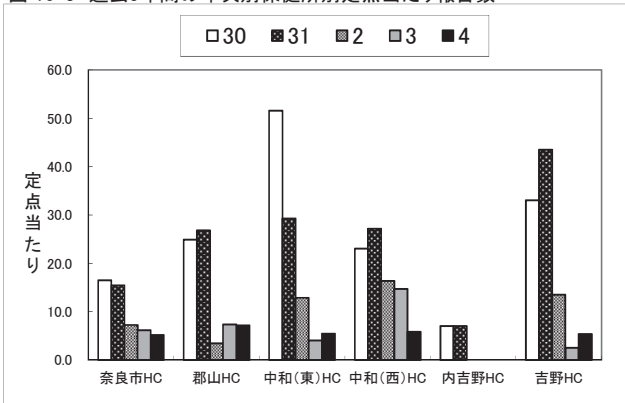
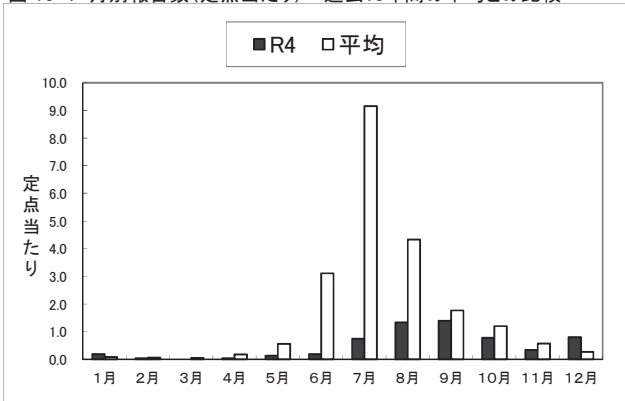


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R4の奈良県の報告数は199人(定点当たり5.85)であった。

【図10-1】過去10年間での最多の週は、H26の第29週(6.26)(213人)であった。R4では第31週および第34週の(0.41)(14人)で、ピークの高さが過去10年間で最も低い年となった。

【図10-2】奈良県は、R4が5.85(全国第36位)と過去10年で最少となり、かつ、10年連続で全国平均を下回った。

【図10-3】R4は、①郡山(7.11)、②中和(西)(5.83)、③中和(東)(5.43)、④吉野(5.33)、⑤奈良市(5.11)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、奈良市、中和西においてR4が過去5年間での最少であった。

【図10-4】最多の月は、10年平均が7月(9.16)で、R4は9月(1.38)であった。

【図10-5】最多の週は、10年平均が第28週(2.25)で、R4は第31週および第34週の(0.41)(14人)であった。

【図10-6】0歳が12人。1歳が63人で最多であった。以下、6歳、7歳、8歳(各1人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であるが、9歳(6人)で増加。また、年齢階級別報告数は[10-14歳]および[15-19歳](各1人)であった。

(柳生 善彦 記)

11.流行性耳下腺炎

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

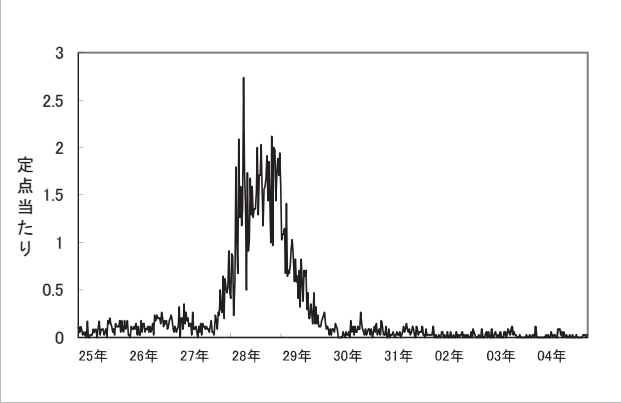


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

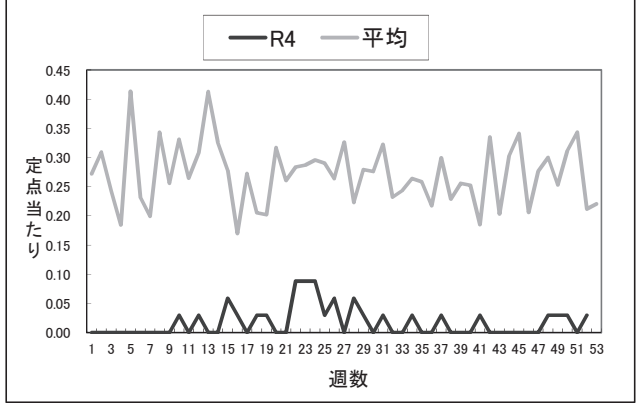


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

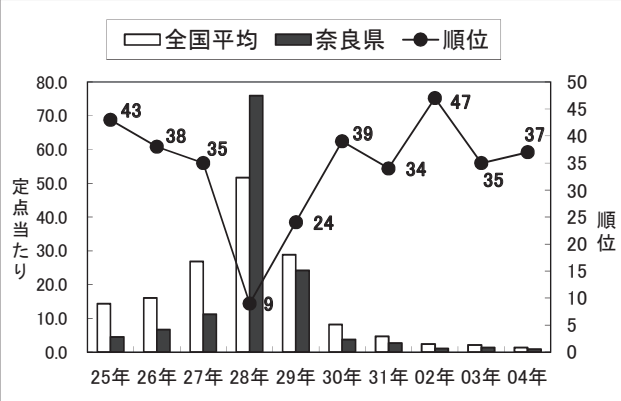


図 11-6 年齢別報告数(実数)

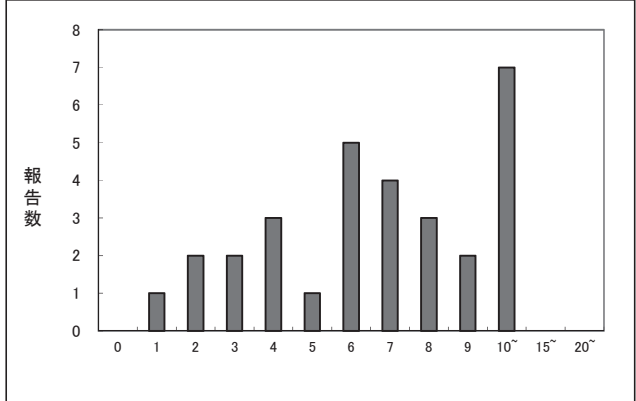
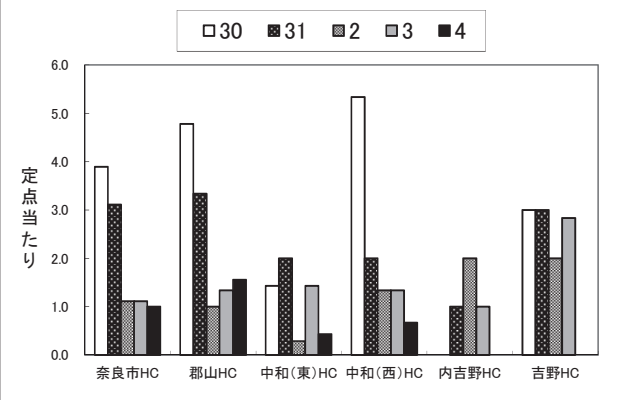
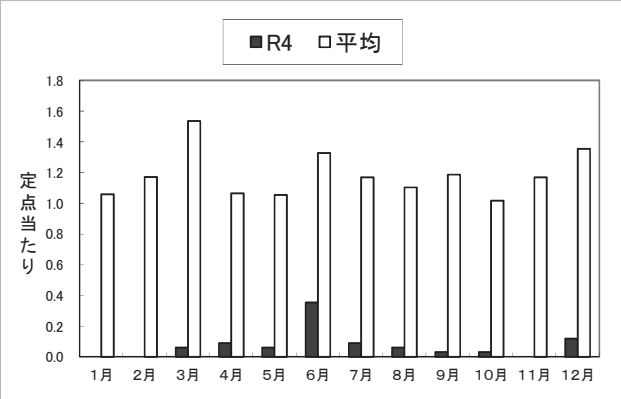


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R4の奈良県の報告数は30人(定点当たり0.88)であった。

【図11-1】過去10年間での最大の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。

【図11-2】全国平均はR4(1.39)で、奈良県はR4(0.88)(37位)で、ともに過去10年間で最少となった。過去10年間で奈良県の方が上回っていたのは、H28(奈良県76.00,全国平均51.71)の1回のみであった。

【図11-3】R4は、①郡山(1.56)、②奈良市(1.00)、③中和(西)(0.67)、④中和(東)(0.43)、⑤吉野(0.00)順であった。また、同一保健所管内の過去5年間の推移では、郡山、中和(東)はR2が最少で、他の保健所管内はすべてR4が最少であった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が3月(1.54)で、R4は6月(0.35)であった。

【図11-5】10年平均では、1年を通して0.17(第16週)~0.41(第5週,第13週)の振幅内での推移であった。一方、R4は、0~0.09(3人)(第22~24週)の振幅内での推移であった。

【図11-6】6歳(5人)が最多で、続いて7歳(4人)、4歳および8歳(各3人)の順。最少は0歳(0人)であった。年齢階級別報告数は[10-14歳]7人であった。

なお、保健研究センターによるウイルス検出状況では、7月に流行性耳下腺炎患者の依頼が1例あり、ワクチン株のムンプスウイルスB型(星野株)を検出した。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

12.急性出血性結膜炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

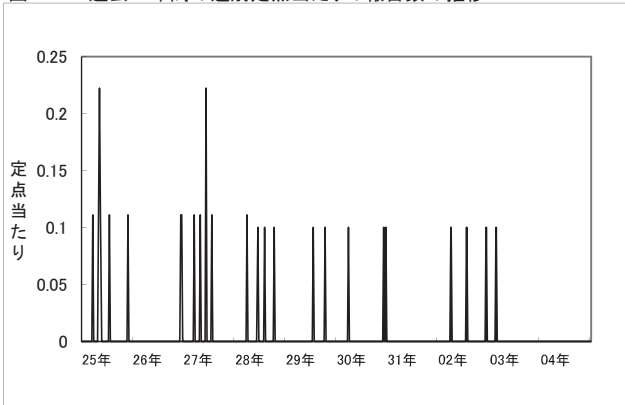


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

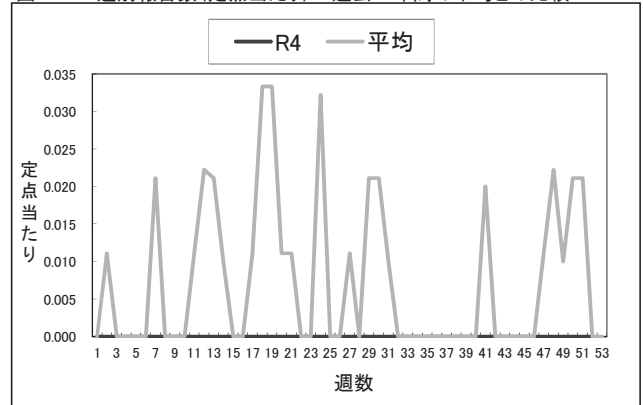


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

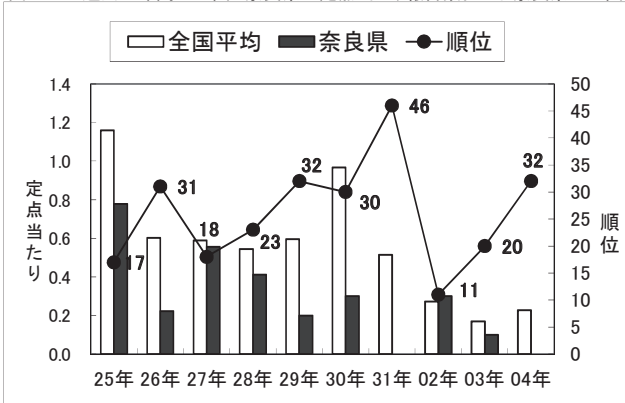


図 12-6 年齢別報告数(実数)

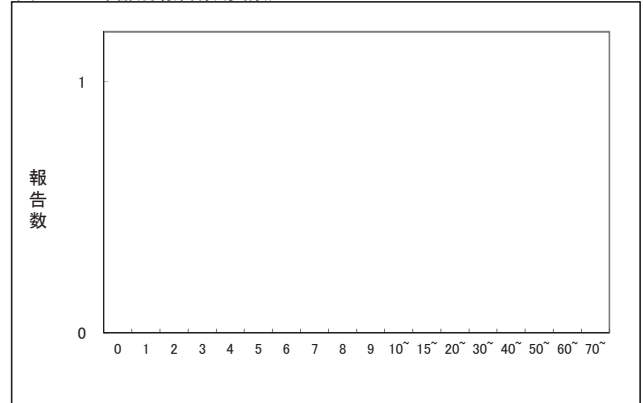
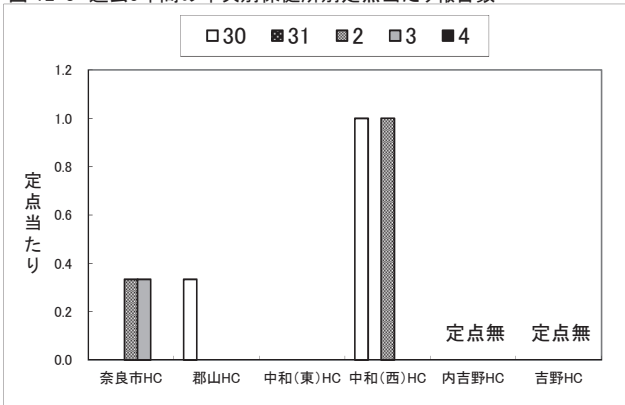
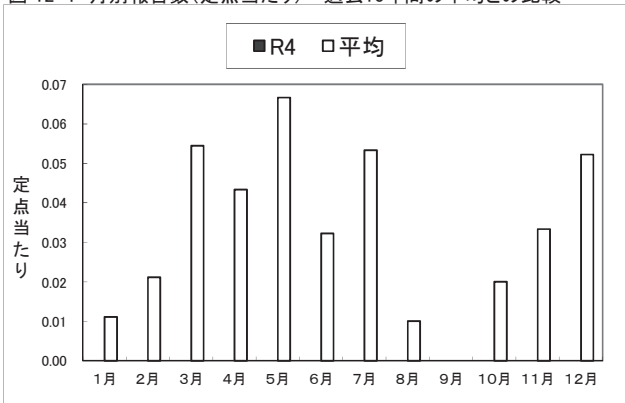


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点では報告はなかった。全国順位は32位であった。

(平井 宏明 記)

13.流行性角結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

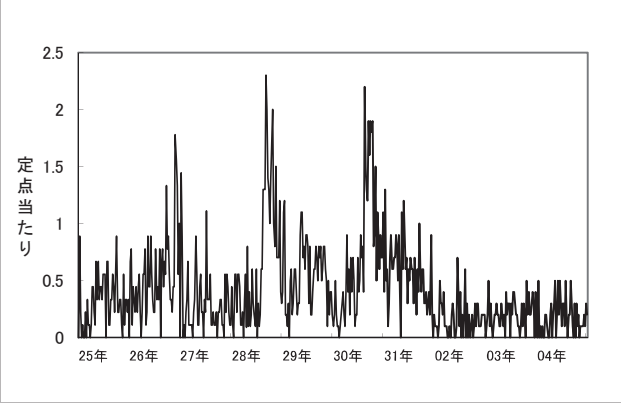


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

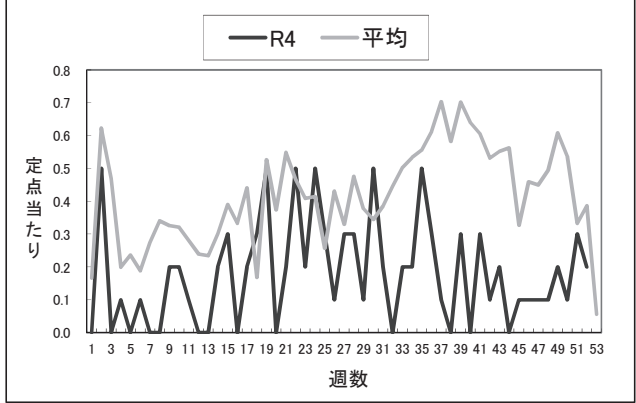


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

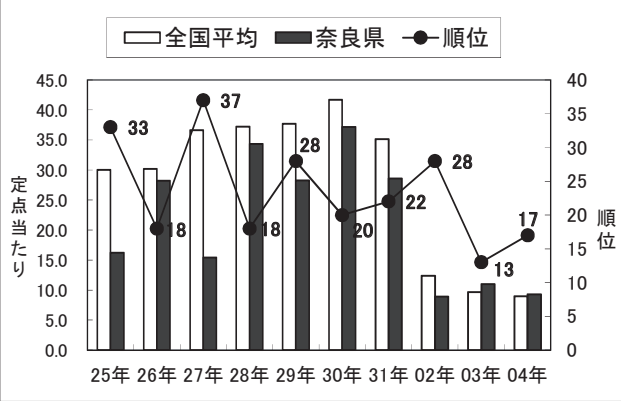


図 13-6 年齢別報告数(実数)

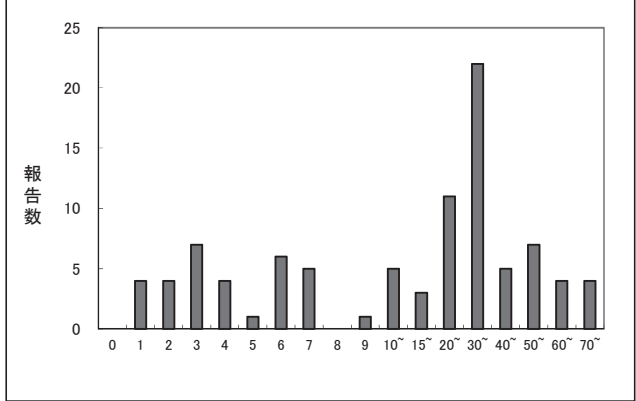
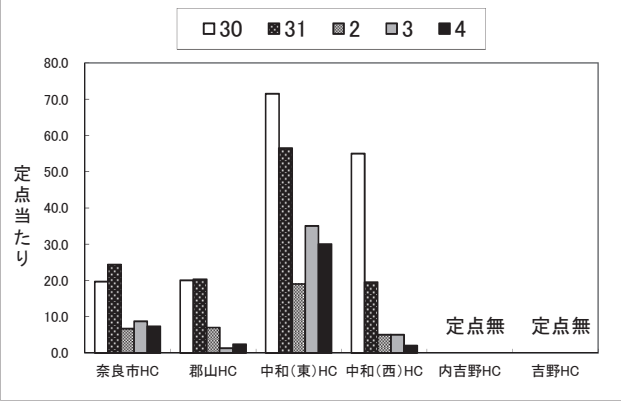
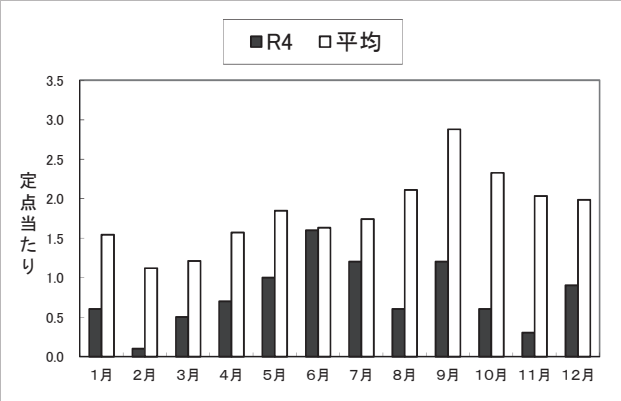


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では93例の報告があった。前年の110例より15%減少していた。奈良県の定点あたりの報告数9.3(R3年は11)は全国平均9.0(R3年は9.7)の103%であった。順位は17位と昨年の13位より下がった。6月に定点あたりの報告数が1.6と最大となり、7月9月の1.2、5月の1.0がそれに続いた。定点あたりの報告数では、中和(東)が30と特に多く、奈良市7.33、郡山2.33、中和西2.0と続いた。年齢では30歳代が22例。20歳代11例でこの2つで35%を占めた。9歳までの32例とほぼ同数なことは親子間での感染を示唆しているのかもしれない。次いで10歳代の8例が多かった。

(平井 宏明 記)

基幹定点分(週報)

14.細菌性髄膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

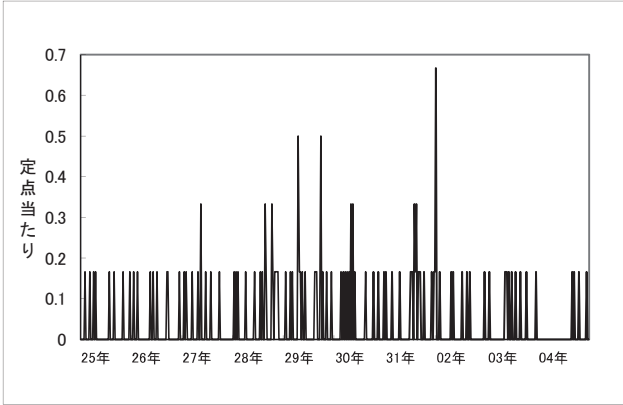


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

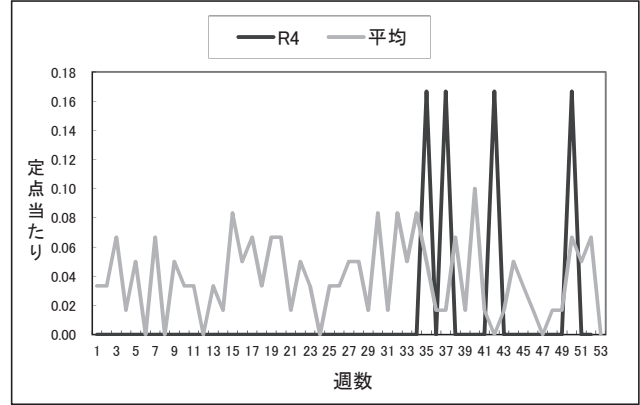


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

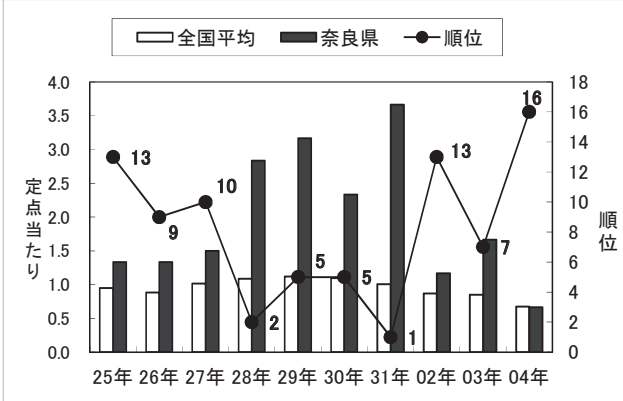


図 14-6 年齢別報告数(実数)

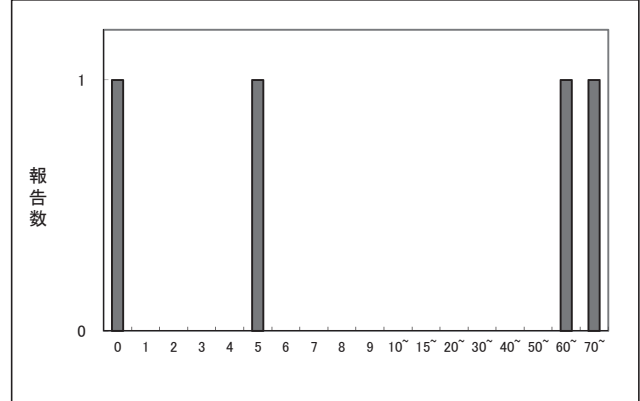
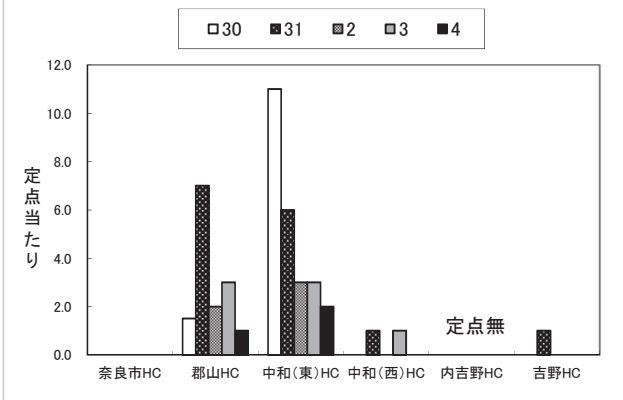
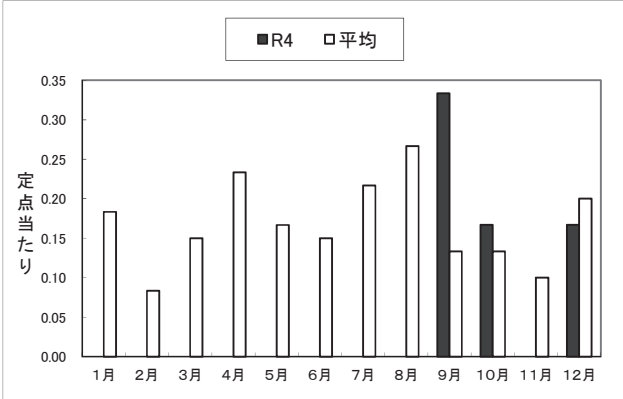


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年の奈良県における報告数は4例で、定点あたりの報告数は0.67であった。定点あたりの報告数は全国平均とほぼ同じ値であった。奈良県はこれまでも細菌性髄膜炎の報告数が多い県であり、令和元年は全国ワースト1位、令和2年はワースト13位、令和3年はワースト7位と、全国と比べ例年多い傾向にあり、令和4年も16位であった。年齢別では、60歳以上の高齢者と5歳以下の乳幼児からの発症であった。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地がまだまだ残されていると思われる。

(矢野 寿一 記)

15.無菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

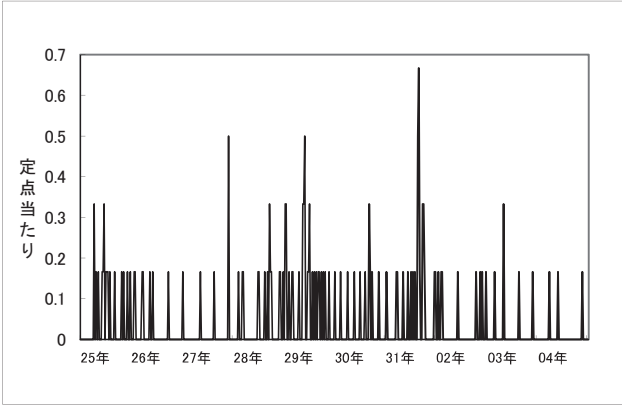


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

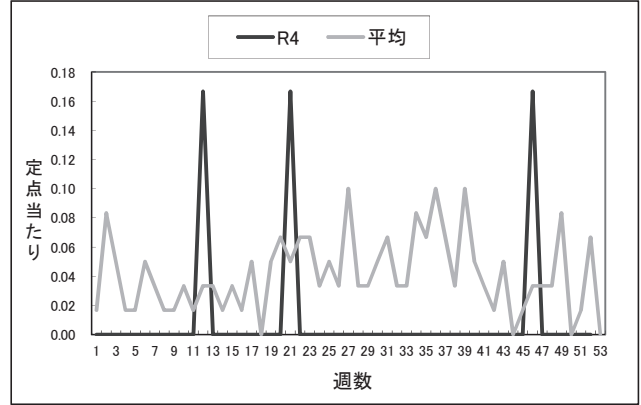


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

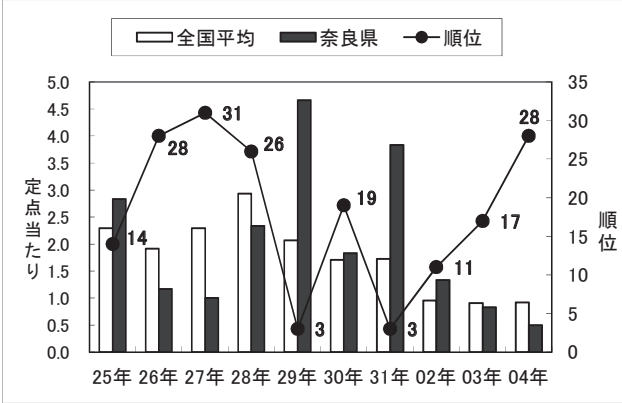


図 15-6 年齢別報告数(実数)

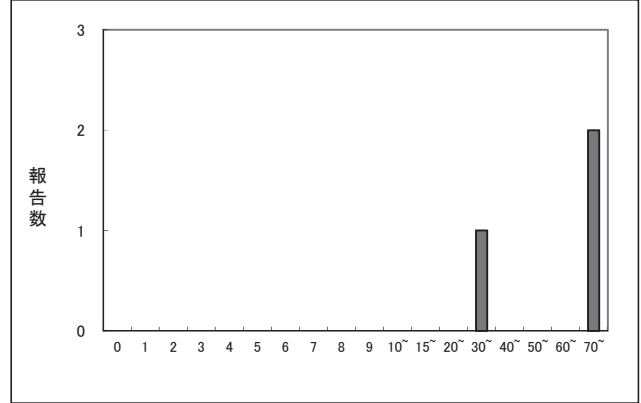
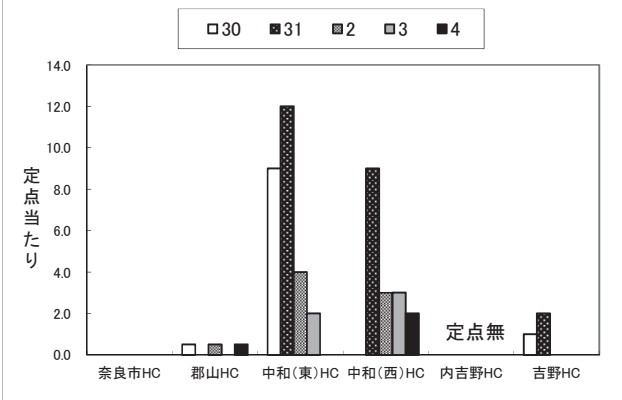
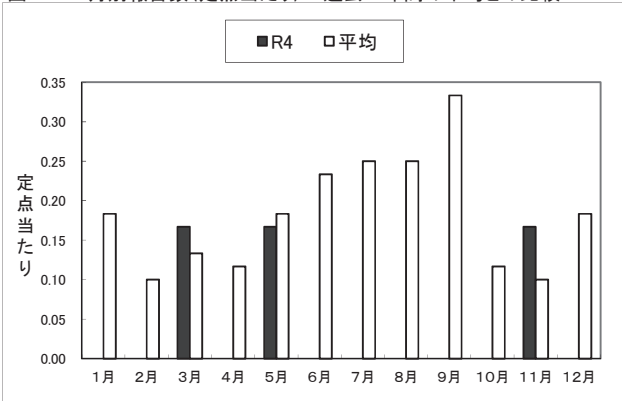


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和4年の報告数は3例、定点あたりの報告数は0.5であった。

保健研究センターによるウイルス検出状況では、無菌性髄膜炎患者の検査依頼3例のうち1例からライノウイルスCを検出した。

無菌性髄膜炎は、エンテロウイルス属であるコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが原因となることが多いことから、例年、初夏から増加を始め、夏から秋にかけて流行が見られる傾向にある。令和4年は報告数が3例のため不確かではあるが、季節性は明らかではなかった。COVID-19蔓延によるウイルス干渉や感染対策などが影響した可能性も考えられる。

(矢野 寿一 記)

16.マイコプラズマ肺炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

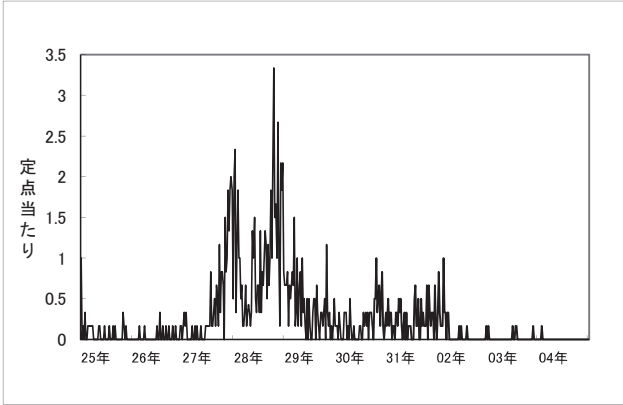


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

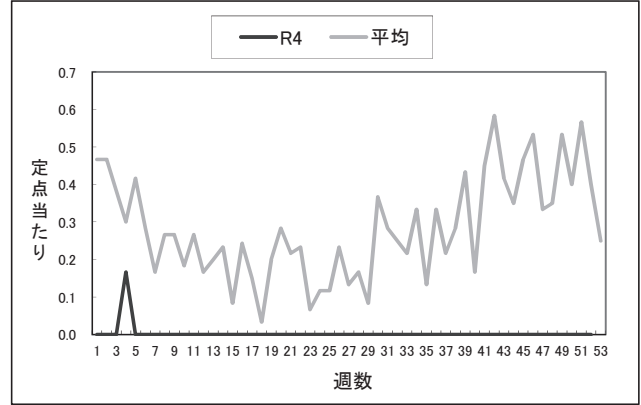


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

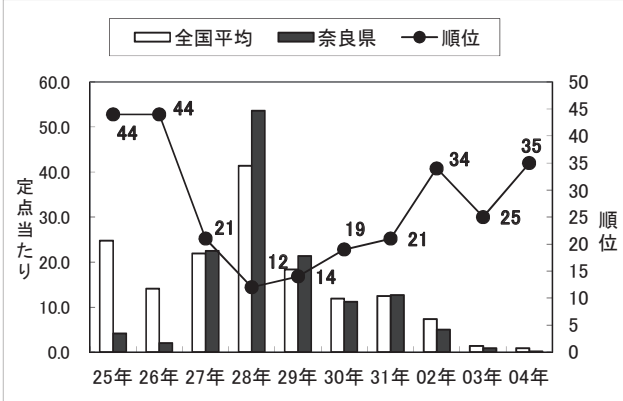


図 16-6 年齢別報告数(実数)

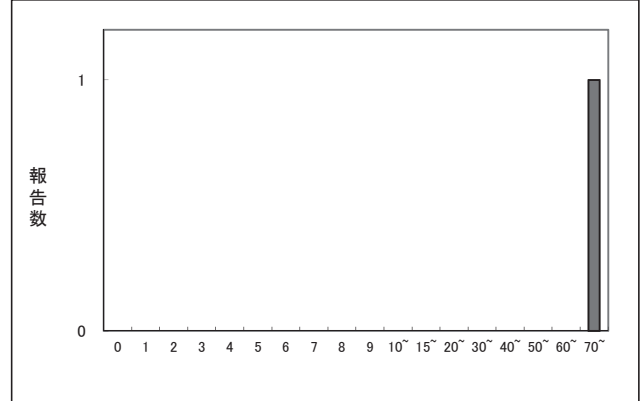
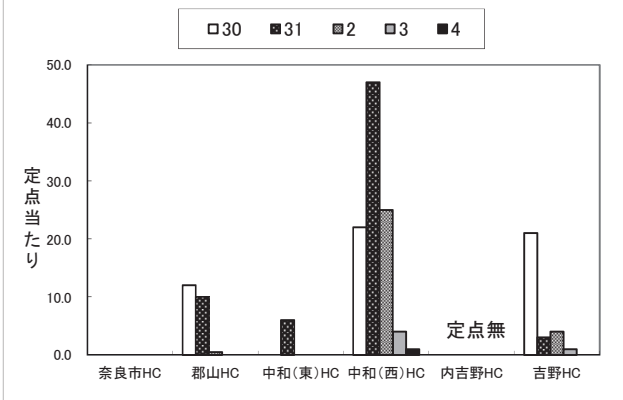
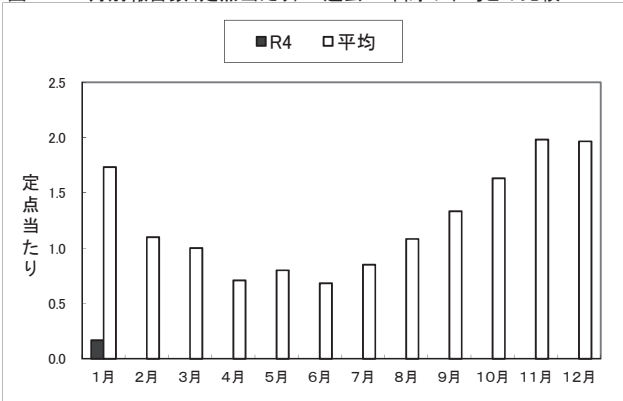


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和4年の報告数は1例、定点あたりの報告数は0.17で、平成28年からの減少傾向が継続している。この傾向は奈良県に限った傾向ではなく、全国においても定点あたり報告数は0.90と平成25年以降で最小値となっている。平成28年にマイコプラズマ肺炎の全国的な流行があったが、その後は大きな流行はみられていない。

(矢野 寿一 記)

17.クラミジア肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

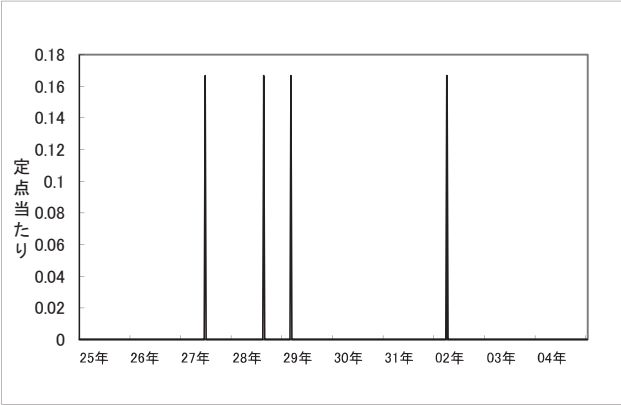


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

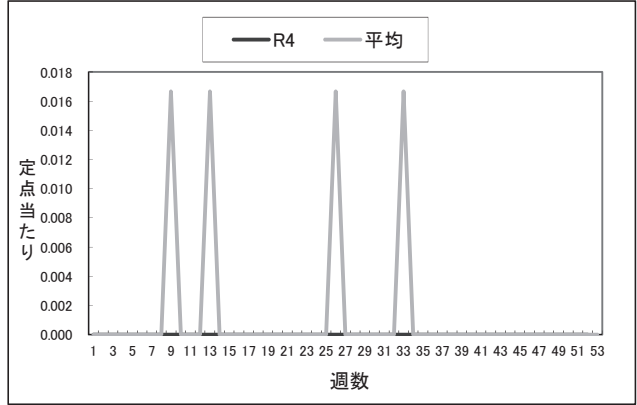


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

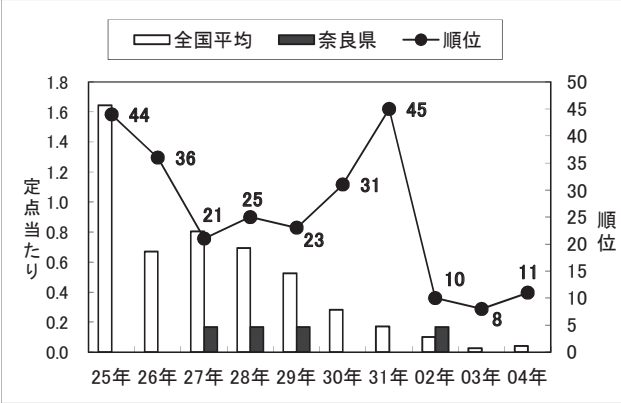


図 17-6 年齢別報告数(実数)

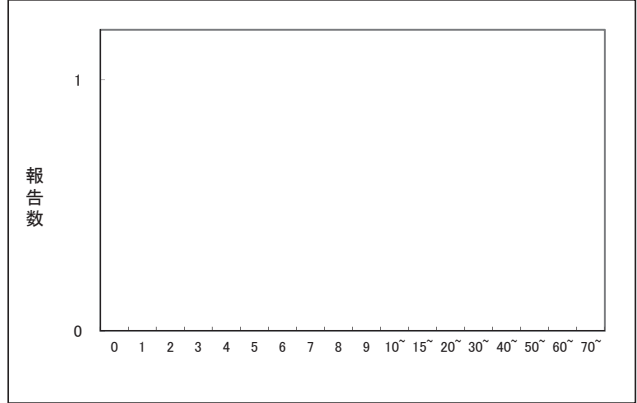
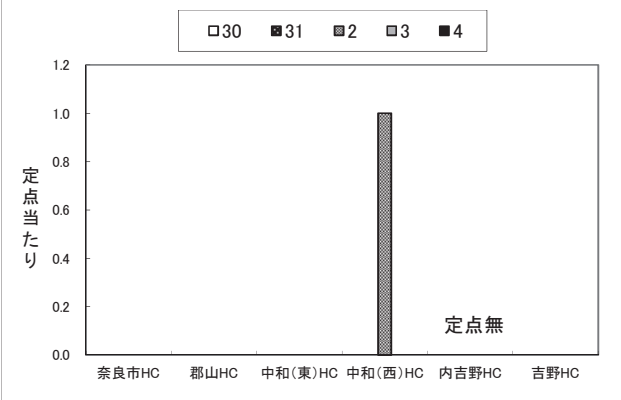
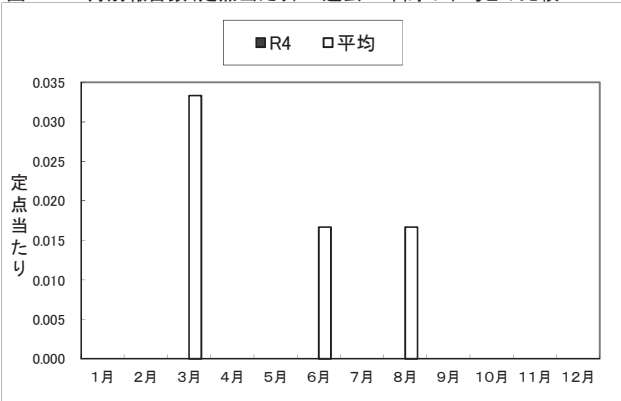


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年における奈良県の報告数、定点あたりの報告数とも0であった。過去にも平成30年、令和元年、令和3年など、検出0の年もみられた。診断が難しいこともあり、例年通り低い検出数で推移していることに変わりはないようである。

(矢野 寿一 記)

18. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

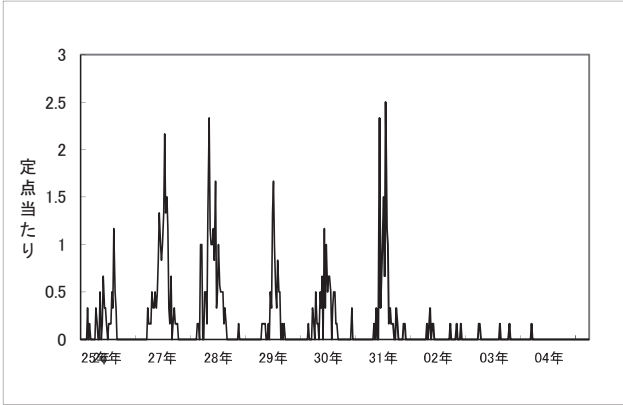


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

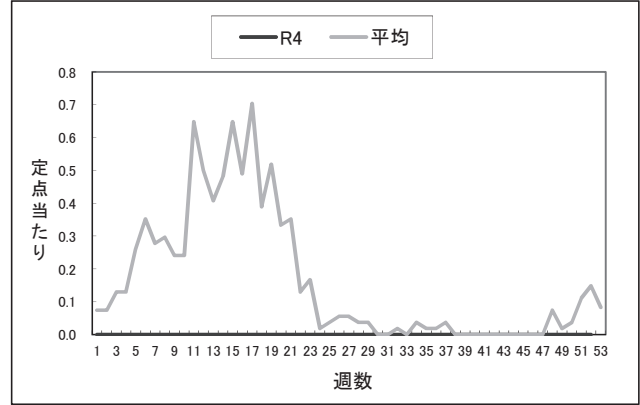


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

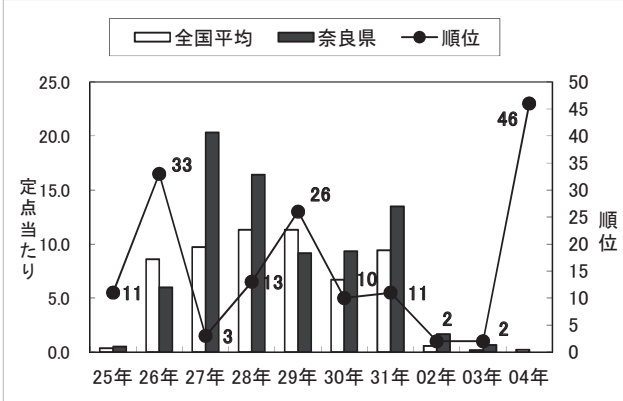


図 18-6 年齢別報告数(実数)

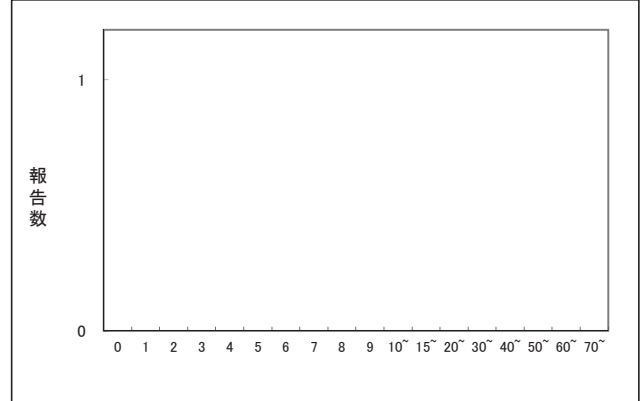
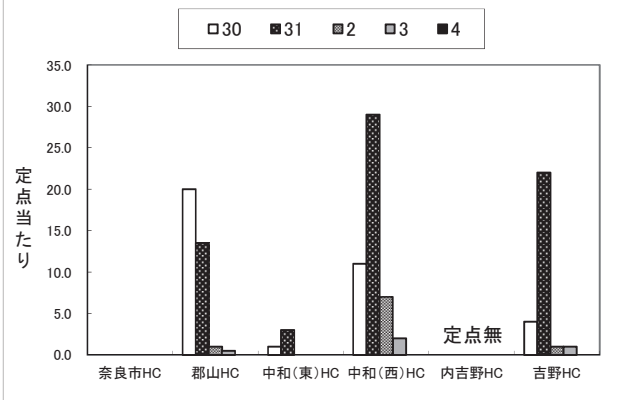
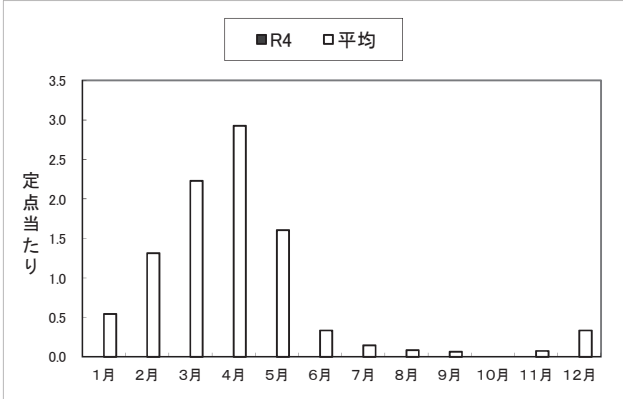


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年の奈良県における報告数は0件であった。令和元年からの報告数はそれぞれ81件、10件、4件で大きく改善している。全国順位も令和2年からワースト2位が続いていたが、令和4年は46位とこれも大きく改善した。全国の定点あたり報告数についても平成29年以降減少しており、平成29年の11.32から令和4年は0.21で、減少傾向は全国的なことのように見える。ロタウイルスワクチン導入によると推察される。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

19.性器クラミジア感染症

図 19-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

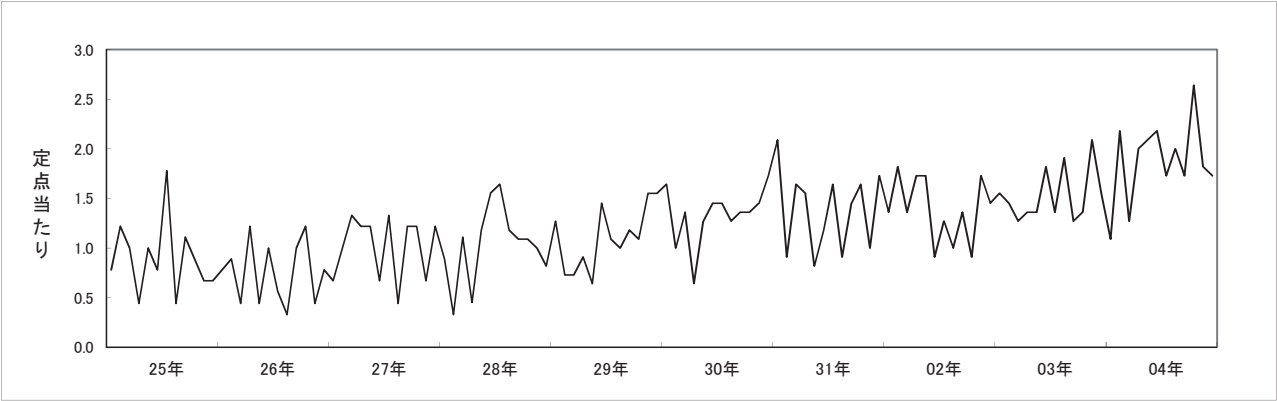


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

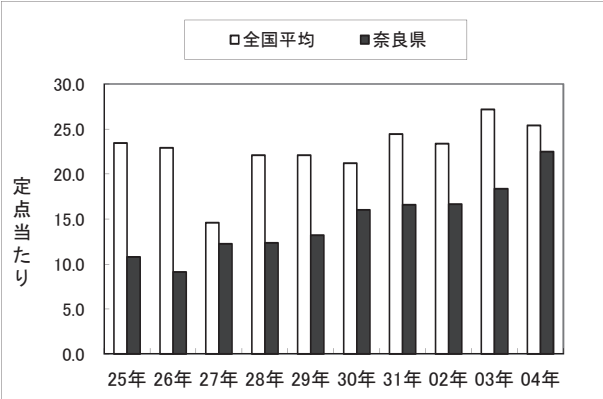


図 19-5 年齢別報告数(実数)

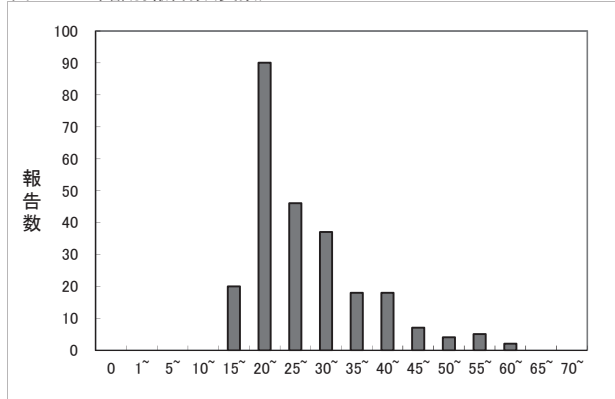
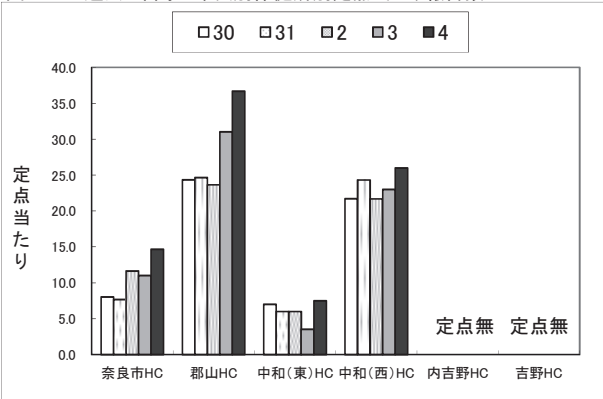
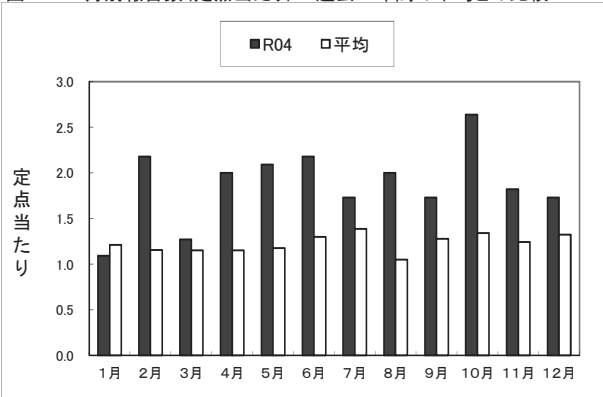


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

性器クラミジア感染症報告数は、STD4疾患の中で、例年通り最も多かった。
 定点当たりの報告数は全国平均を下回っているが、全国平均が横ばいであるのに対して奈良県では年々増加している。
 過去5年間の保健所別の報告数は例年通り郡山HCが最多で中和HCが続いている。
 月別報告数は、月別では大きな差はないが、過去10年間の平均と比較してほぼ各月で増加している。
 年齢別では20歳代が圧倒的に多く、性感染症の若年化が著明であるといえる。

(三馬 省二 記)

20.性器ヘルペスウイルス感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

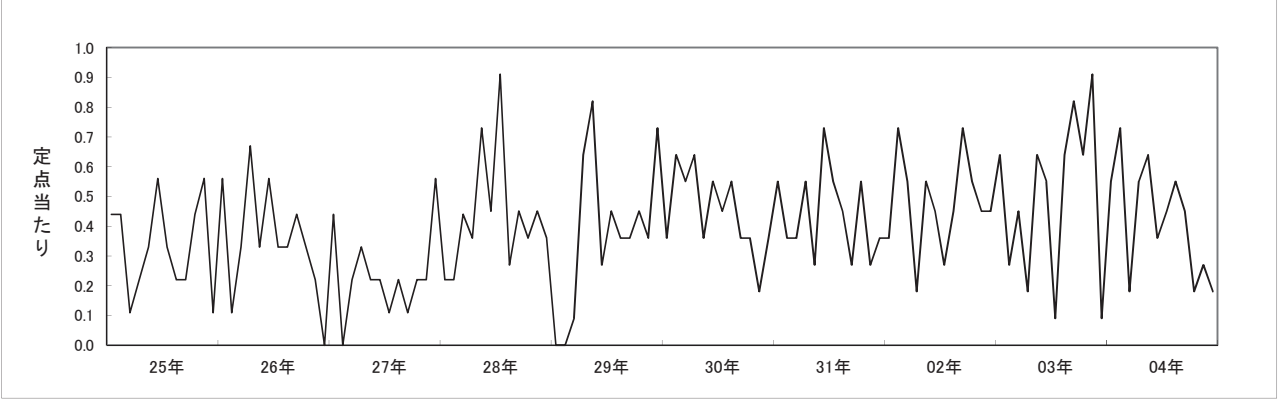


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

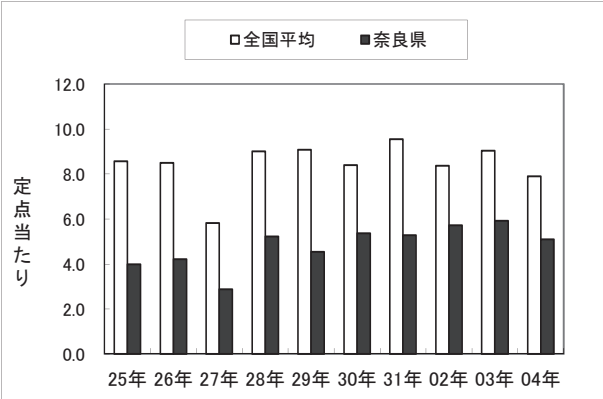


図 20-5 年齢別報告数(実数)

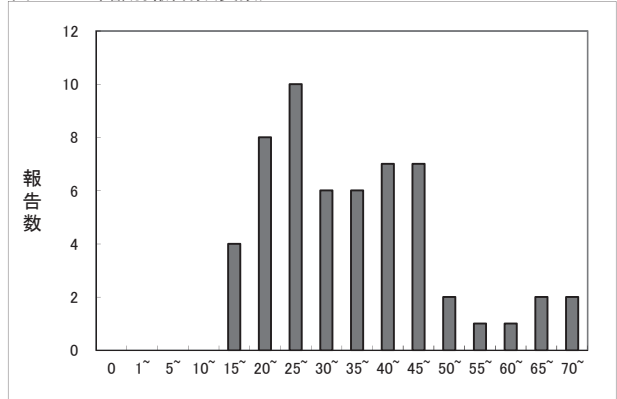
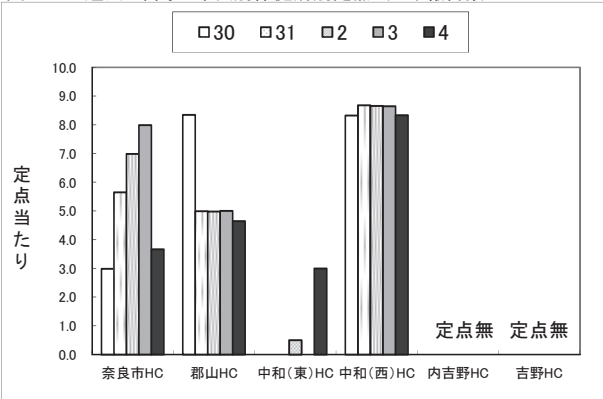


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



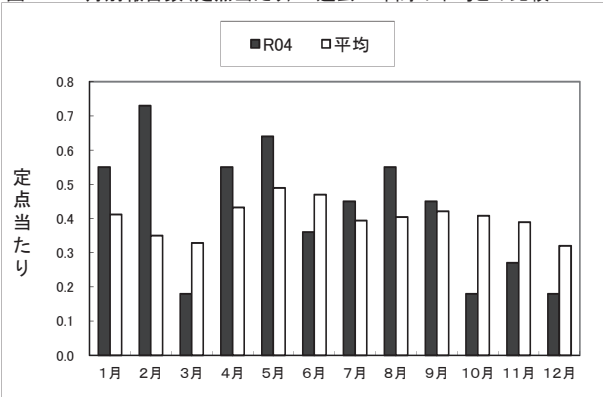
※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

コメント

全国平均と比較して報告数は少なく、前年度より軽度減少したが全体的には緩やかな増加傾向にある。
保健所別報告数では中和(西)HCが例年通り最多であるが、昨年末まで著明な増加を示した奈良市HCが減少した。
月別では秋口の減少が目立った。
年齢別ではやはり20歳代が最多であったが、15歳～45歳代まで幅広く分布した。また、クラミジア感染症に比較して60歳以上の高齢層にも少なからず認められた点特徴的である。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.尖圭コンジローマ

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

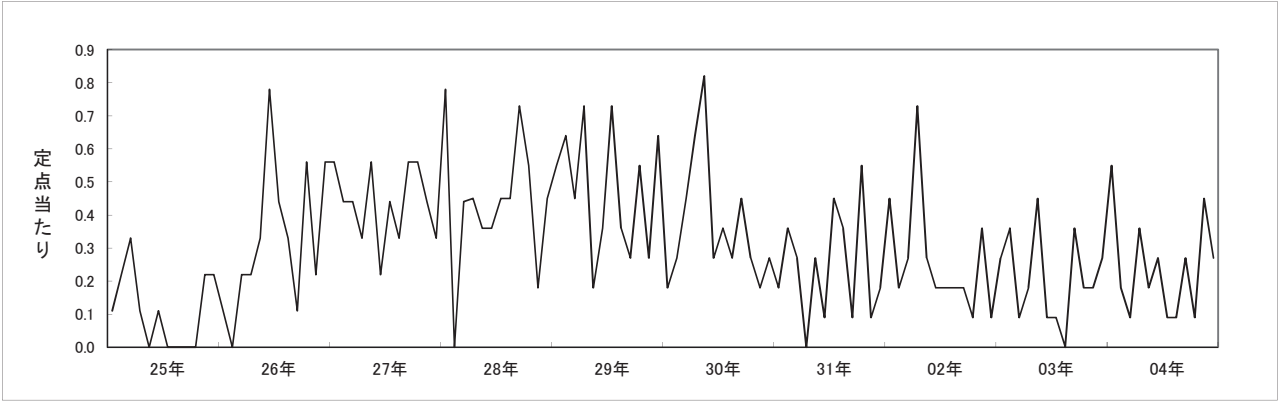


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

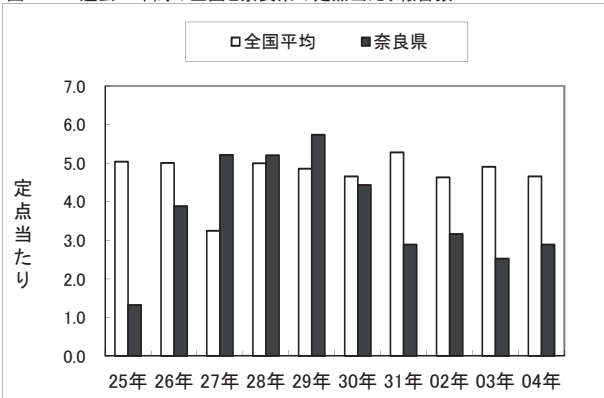


図 21-5 年齢別報告数(実数)

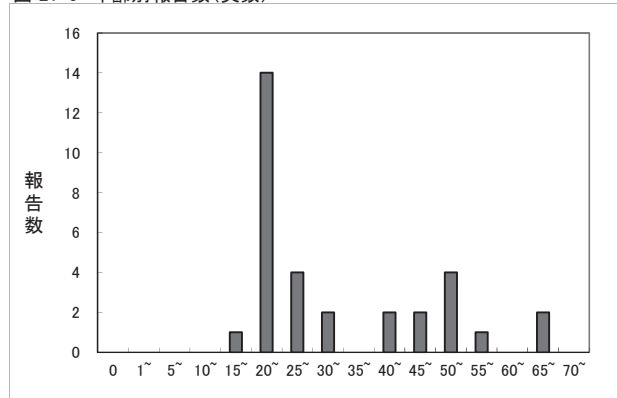
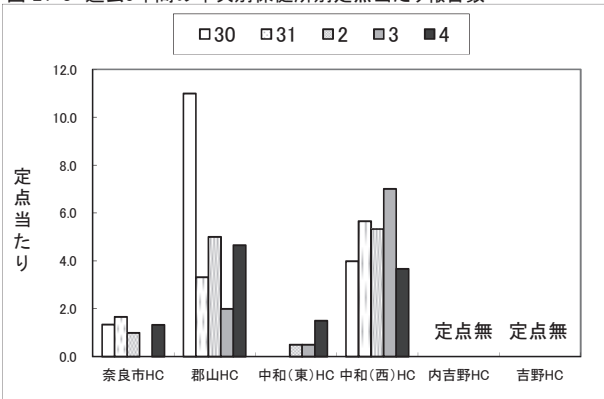
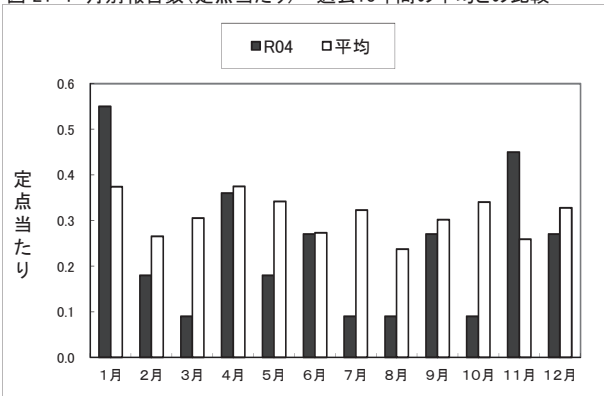


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

全国平均が横ばいであるのに対して、奈良県ではH30年以降減少傾向にある。
保健所別では郡山HCが最多であるが、この数年増加傾向にあった中和(西)HCも本年は減少し2位となった。
月別では例年あまり差がなかったが、本年は1月、4月、11月に多かった。
年齢別ではやはり20歳代が最多であった。

(三馬 省二 記)

22.淋菌感染症

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

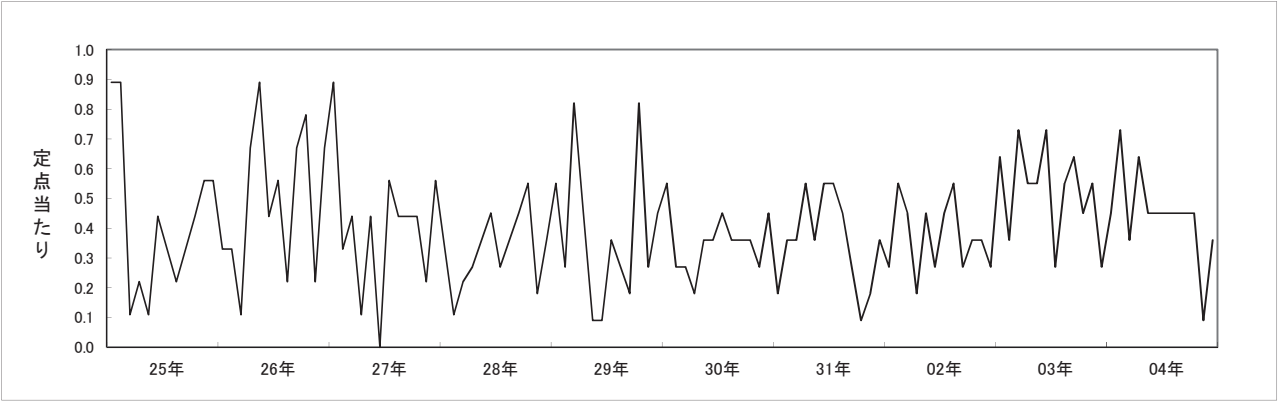


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

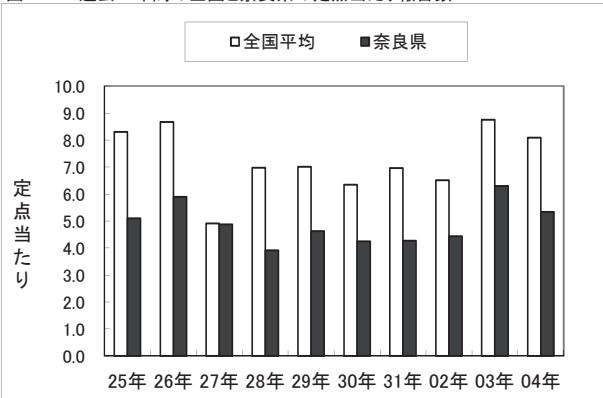


図 22-5 年齢別報告数(実数)

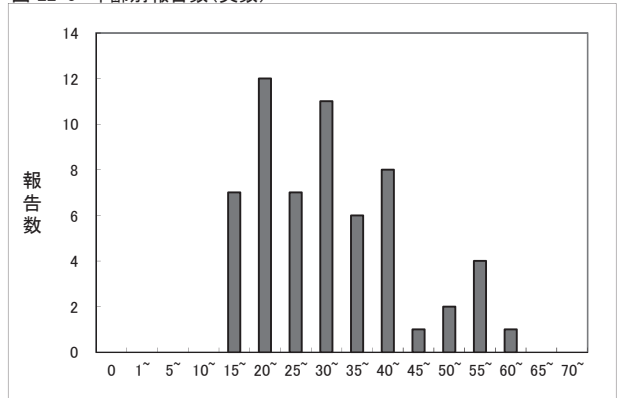
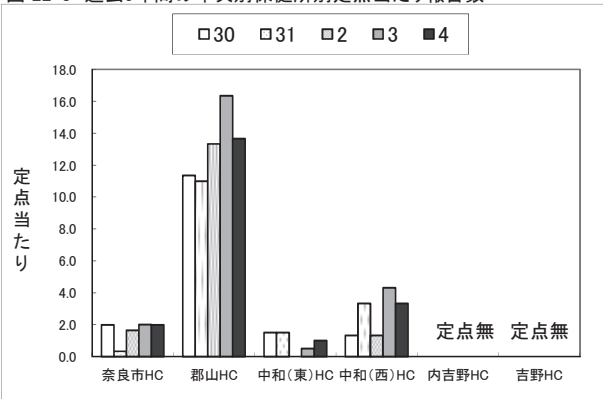


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



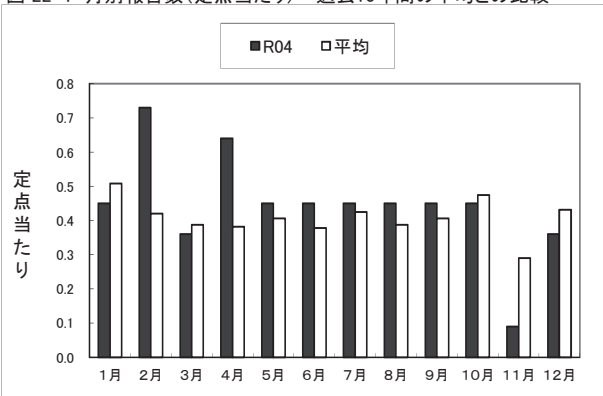
※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

コメント

全国平均に比較してほぼ7割程度の定点あたり報告数である。保健所別では、例年どおり圧倒的に郡山HCが多かった。月別では、2月と4月が多かったが、全体的にはほぼ平均通りであった。年齢別では15歳～40歳代まで幅広く分布し、15～19歳の報告数が多いのが特徴的であった。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(月報)

23.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

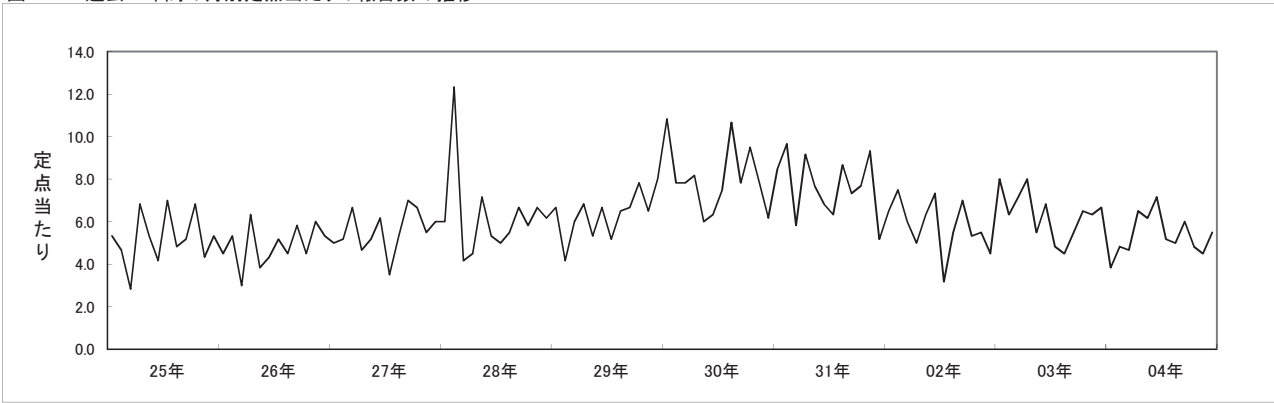


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

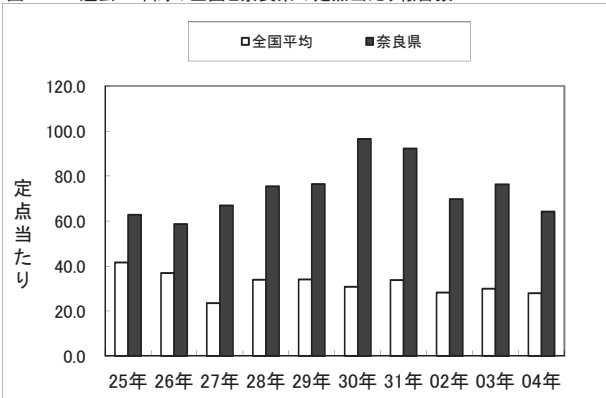


図 23-5 年齢別報告数(実数)

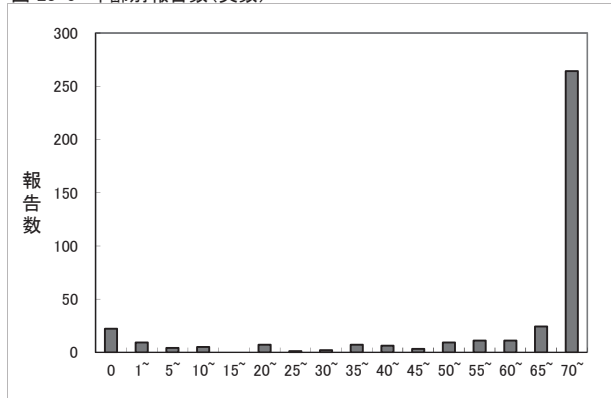
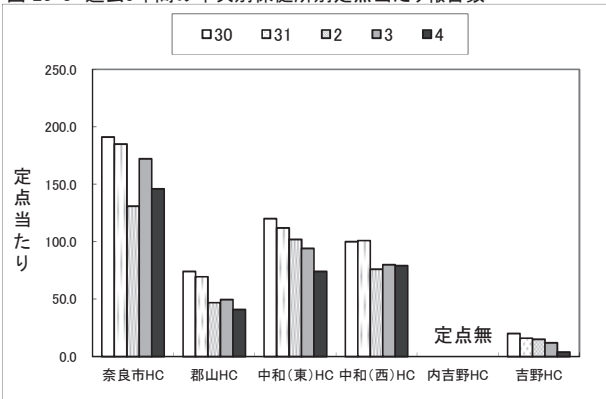
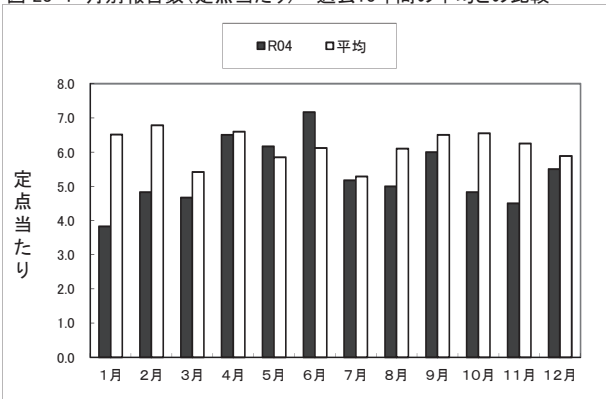


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 23-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年の奈良県における報告数は385例で、定点あたりの報告数は64.2であった。奈良県は例年MRSAの報告数が多く、令和4年も平成28年以降同様全国ワースト1位で、7年連続ワースト1位となってしまった。

分離数に季節性は見られず、年齢も70歳以上からの分離率が極めて高い点は令和3年と同様であった。

近年、奈良県で市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、注意が必要である。

奈良県において家庭内感染症として難治性の市中感染型MRSA感染症が報告されている。院内感染型MRSAについても、拡散防止のため医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

24.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

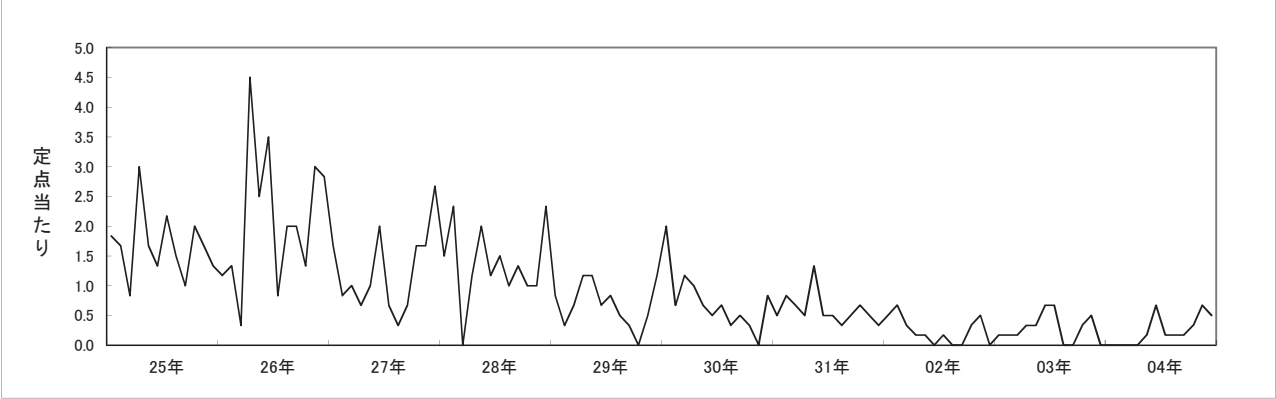


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

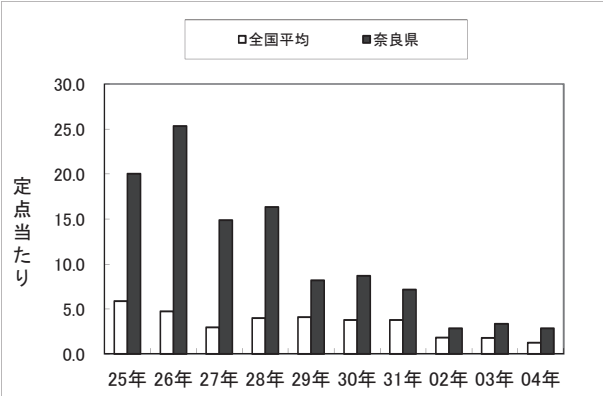


図 24-5 年齢別報告数(実数)

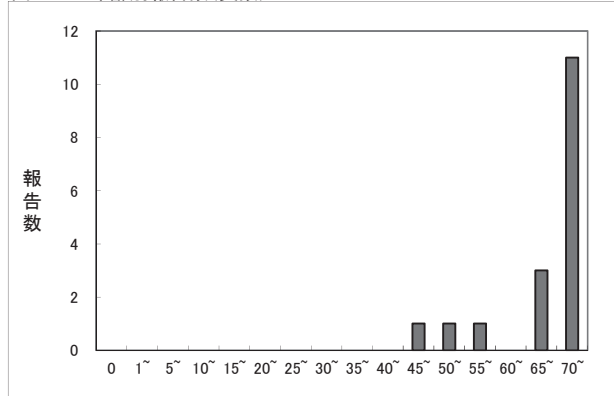
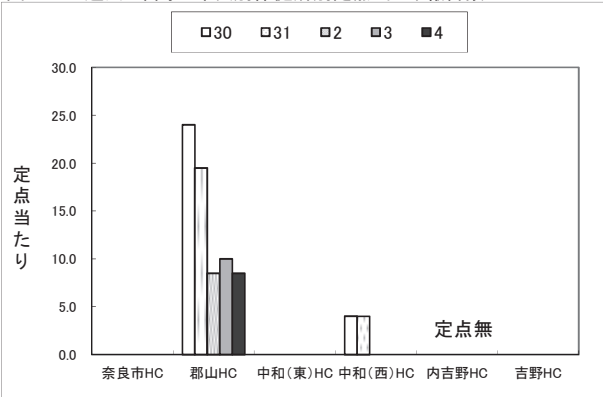
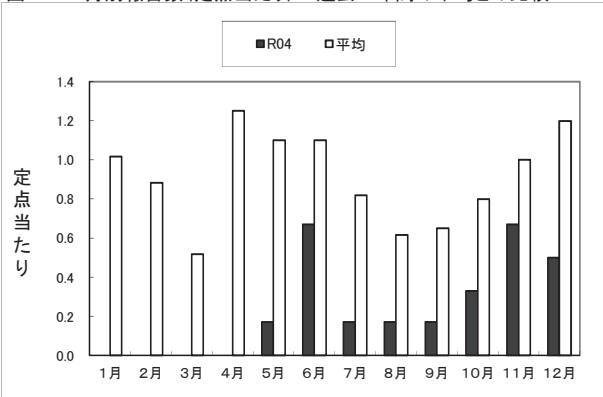


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 24-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県の令和4年における報告数は17例、定点あたりの報告数は2.83であった。令和3年の報告数は20例、定点あたり報告数3.34と大きな変動はないが、全国順位は令和2年ワースト12位、令和3年ワースト9位、令和4年ワースト8位と悪い順位で維持されていることに変わりはない。

年齢別報告数は令和3年同様に70歳以上が多くを占めている。ワクチンがカバーしている肺炎球菌血清型は多く、ワクチン接種が肺炎球菌分離率を下げるということが知られている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され(特に高齢者)、接種率増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

25.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

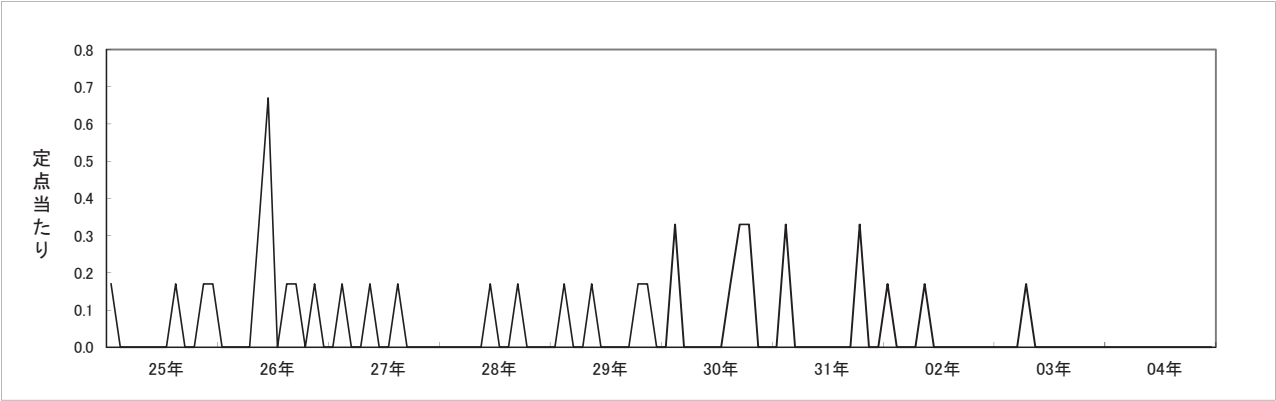


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

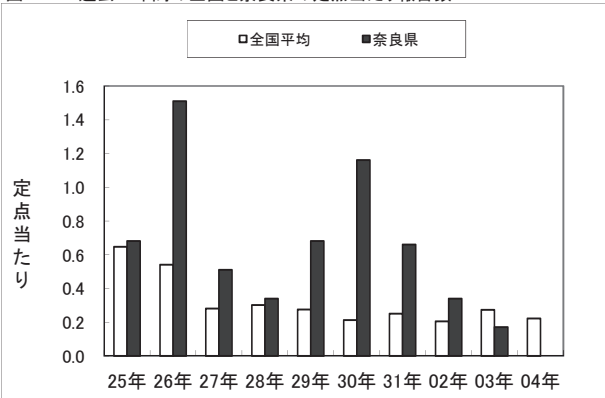


図 25-5 年齢別報告数(実数)

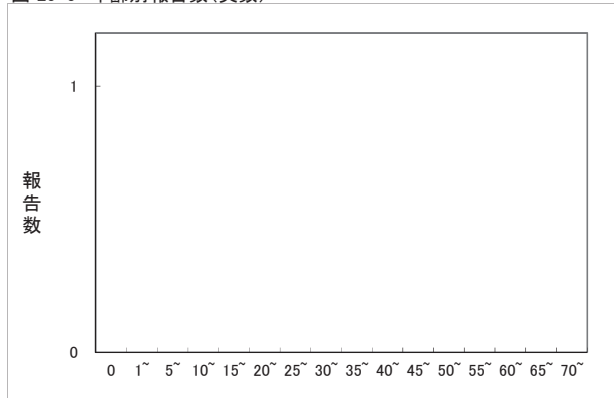
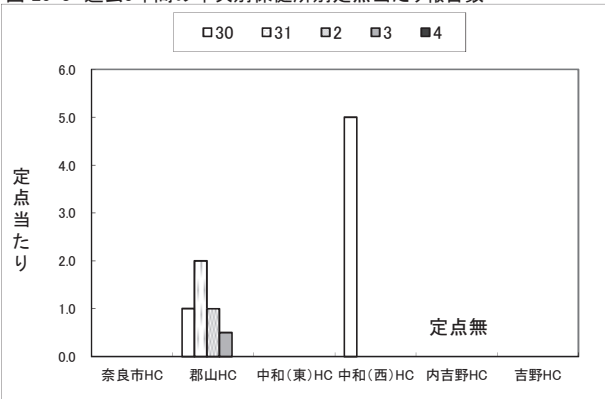
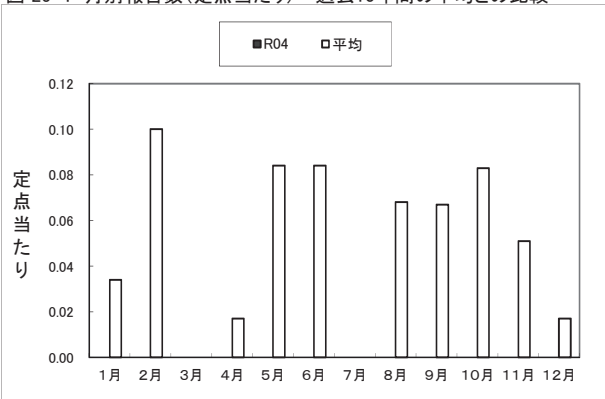


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 25-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和4年の奈良県における全報告数は0例であった。令和元年、2年、3年の報告数はそれぞれ4例、2例、1例と改善が見られる。これは全国的な傾向のようで、定点あたりの全国平均報告数も徐々に減少してきている。

薬剤耐性緑膿菌の減少には感染対策と抗菌薬適正使用(特にカルバペネム系薬)が重要となる菌種であり、各医療機関における適切な対応により今後も減少傾向が維持されることを期待する。

(矢野 寿一 記)

表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	6	4	3	8	21	104	146
RSウイルス感染症	21	20	19	1	21	71	553	463	317	108	48	31	1,673
咽頭結膜熱	23	6	14	10	18	76	40	4	4	11	10	29	245
A群溶連菌咽頭炎	69	8	6	4	15	37	17	6	19	7	7	38	233
感染症胃腸炎	960	536	313	383	523	1,026	537	274	314	219	229	477	5,791
水痘	5	7	9	5	6	12	9	3	19	6	19	19	119
手足口病	30	11	2	17	8	24	68	183	304	175	125	162	1,109
伝染性紅斑	0	1	0	1	0	1	2	1	0	1	0	1	8
突発性発しん	30	32	49	47	35	65	50	33	38	41	29	34	483
ヘルパンギーナ	6	1	0	1	4	6	25	45	47	26	11	27	199
流行性耳下腺炎	0	0	2	3	2	12	3	2	1	1	0	4	30
計	1,144	622	414	472	632	1,330	1,304	1,014	1,063	595	478	822	9,890
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	6	1	5	7	10	16	12	6	12	6	3	9	93
計	6	1	5	7	10	16	12	6	12	6	3	9	93
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4
無菌性髄膜炎	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
マイコプラズマ肺炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	0	1	0	0	0	2	1	1	1	8
性器クラミジア感染症	12	24	14	22	23	24	19	22	19	29	20	19	247
性器ヘルペスウイルス感染症	6	8	2	6	7	4	5	6	5	2	3	2	56
尖圭コンジローマ	6	2	1	4	2	3	1	1	3	1	5	3	32
淋菌感染症	5	8	4	7	5	5	5	5	5	5	1	4	59
計	29	42	21	39	37	36	30	34	32	37	29	28	394
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	29	28	39	37	43	31	30	36	29	27	33	385
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	4	1	1	1	2	4	3	17
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	23	29	28	39	38	47	32	31	37	31	31	36	402

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.07	0.05	0.15	0.38	1.89	2.65
RSウイルス感染症	0.62	0.59	0.56	0.03	0.62	2.09	16.26	13.62	9.32	3.18	1.41	0.91	49.21
咽頭結膜熱	0.68	0.18	0.41	0.29	0.53	2.24	1.18	0.12	0.12	0.32	0.29	0.85	7.21
A群溶連菌咽頭炎	2.03	0.24	0.18	0.12	0.44	1.09	0.50	0.18	0.56	0.21	0.21	1.12	6.85
感染症胃腸炎	28.24	15.76	9.21	11.26	15.38	30.18	15.79	8.06	9.24	6.44	6.74	14.03	170.32
水痘	0.15	0.21	0.26	0.15	0.18	0.35	0.26	0.09	0.56	0.18	0.56	0.56	3.50
手足口病	0.88	0.32	0.06	0.50	0.24	0.71	2.00	5.38	8.94	5.15	3.68	4.76	32.62
伝染性紅斑	0.00	0.03	0.00	0.03	0.00	0.03	0.06	0.03	0.00	0.03	0.00	0.03	0.24
突発性発しん	0.88	0.94	1.44	1.38	1.03	1.91	1.47	0.97	1.12	1.21	0.85	1.00	14.21
ヘルパンギーナ	0.18	0.03	0.00	0.03	0.12	0.18	0.74	1.32	1.38	0.76	0.32	0.79	5.85
流行性耳下腺炎	0.00	0.00	0.06	0.09	0.06	0.35	0.09	0.06	0.03	0.03	0.00	0.12	0.88
計	33.65	18.29	12.18	13.88	18.59	39.12	38.35	29.82	31.26	17.50	14.06	24.18	290.88
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.60	0.10	0.50	0.70	1.00	1.60	1.20	0.60	1.20	0.60	0.30	0.90	9.30
計	0.60	0.10	0.50	0.70	1.00	1.60	1.20	0.60	1.20	0.60	0.30	0.90	9.30
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.17	0.00	0.17	0.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	0.17	0.00	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.33	0.17	0.17	0.17	1.33
性器クラミジア感染症	1.09	2.18	1.27	2.00	2.09	2.18	1.73	2.00	1.73	2.64	1.82	1.73	22.45
性器ヘルペスウイルス感染症	0.55	0.73	0.18	0.55	0.64	0.36	0.45	0.55	0.45	0.18	0.27	0.18	5.09
尖圭コンジローマ	0.55	0.18	0.09	0.36	0.18	0.27	0.09	0.09	0.27	0.09	0.45	0.27	2.91
淋菌感染症	0.45	0.73	0.36	0.64	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.09	0.36	5.36
計	2.64	3.82	1.91	3.55	3.36	3.27	2.73	3.09	2.91	3.36	2.64	2.55	35.82
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3.83	4.83	4.67	6.50	6.17	7.17	5.17	5.00	6.00	4.83	4.50	5.50	64.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.67	0.17	0.17	0.17	0.33	0.67	0.50	2.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	3.83	4.83	4.67	6.50	6.33	7.83	5.33	5.17	6.17	5.17	5.17	6.00	67.00

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計
インフルエンザ	0	0	11	7	2	4	4	7	6	8	7	33	21	16	7	10	0	1	1	1	146
RSウイルス感染症	106	168	531	431	257	117	48	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,673
咽頭結膜熱	1	20	115	39	34	10	9	3	0	3	0	5	1	5							245
A群溶連菌咽頭炎	0	0	28	23	39	24	36	14	12	13	10	25	3	6							233
感染症胃腸炎	52	411	1,101	809	687	504	396	268	206	137	140	373	116	591							5,791
水痘	2	5	18	9	4	7	12	6	12	7	13	21	2	1							119
手足口病	6	58	458	285	157	70	39	14	4	2	5	3	0	8							1,109
伝染性紅斑	0	0	2	0	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0							8
突発性発しん	2	129	265	61	18	6	1	0	0	0	1	0	0	0							483
ヘルパンギーナ	0	12	63	51	28	22	12	1	1	1	6	1	1	0							199
流行性耳下腺炎	0	0	1	2	2	3	1	5	4	3	2	7	0	0							30
計	169	803	2,582	1,710	1,227	763	555	325	243	166	178	435	123	611	0	0	0	0	0	0	9,890
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	4	4	7	4	1	6	5	0	1	5	3	11	22	5	7	4	4	4	93
計	0	0	4	4	7	4	1	6	5	0	1	5	3	11	22	5	7	4	4	4	93
年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計				
細菌性髄膜炎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3				
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1				
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	8				
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	20	90	46	37	18	18	7	4	5	2	0	0	247				
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	4	8	10	6	6	7	7	2	1	1	2	2	56				
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	1	14	4	2	0	2	2	4	1	0	2	0	32				
淋菌感染症	0	0	0	0	7	12	7	11	6	8	1	2	4	1	0	0	59				
計	0	0	0	0	32	124	67	56	30	35	17	12	11	4	4	2	394				
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	22	9	4	5	0	7	1	2	7	6	3	9	11	11	24	264	385				
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	11	17				
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	22	9	4	5	0	7	1	2	7	6	4	10	12	11	27	275	402				

年齢別報告数(実数:10歳以上1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
インフルエンザ	0.0	11.0	7.0	2.0	4.0	4.0	7.0	6.0	8.0	7.0	6.6	4.2	1.6	0.7	1.0	0.0	0.1	0.1	0.1
年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	274.0	531.0	431.0	257.0	117.0	48.0	13.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	21.0	115.0	39.0	34.0	10.0	9.0	3.0	0.0	3.0	0.0	1.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	0.0	28.0	23.0	39.0	24.0	36.0	14.0	12.0	13.0	10.0	5.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	463.0	1,101.0	809.0	687.0	504.0	396.0	268.0	206.0	137.0	140.0	74.6	23.2	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	7.0	18.0	9.0	4.0	7.0	12.0	6.0	12.0	7.0	13.0	4.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	64.0	458.0	285.0	157.0	70.0	39.0	14.0	4.0	2.0	5.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	131.0	265.0	61.0	18.0	6.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	12.0	63.0	51.0	28.0	22.0	12.0	1.0	1.0	1.0	6.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	0.0	1.0	2.0	2.0	3.0	1.0	5.0	4.0	3.0	2.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	972.0	2,582.0	1,710.0	1,227.0	763.0	555.0	325.0	243.0	166.0	178.0	87.0	24.6	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	0.0	4.0	4.0	7.0	4.0	1.0	6.0	5.0	0.0	1.0	1.0	0.6	1.1	2.2	0.5	0.7	0.4	0.4	0.0
計	0.0	4.0	4.0	7.0	4.0	1.0	6.0	5.0	0.0	1.0	1.0	0.6	1.1	2.2	0.5	0.7	0.4	0.4	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳
インフルエンザ	0.0	5.6	6.8	4.2	0.8	0.1
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳	
RSウイルス感染症	274.0	276.8	1.7	0.0	0.0	
咽頭結膜熱	21.0	41.4	1.2	0.2	0.1	
A群溶連菌咽頭炎	0.0	30.0	8.2	0.6	0.1	
感染症胃腸炎	463.0	699.4	124.9	23.2	8.4	
水痘	7.0	10.0	6.6	0.4	0.0	
手足口病	64.0	201.8	3.1	0.0	0.1	
伝染性紅斑	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	
突発性発しん	131.0	70.2	0.1	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	12.0	35.2	1.1	0.2	0.0	
流行性耳下腺炎	0.0	1.8	2.3	0.0	0.0	
計	972.0	1,367.4	149.7	24.6	8.7	

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳
RSウイルス感染症	28.2%	20.2%	1.1%	0.0%	0.0%
咽頭結膜熱	2.2%	3.0%	0.8%	0.8%	0.8%
A群溶連菌咽頭炎	0.0%	2.2%	5.5%	2.4%	1.0%
感染症胃腸炎	47.6%	51.1%	83.4%	94.3%	96.7%
水痘	0.7%	0.7%	4.4%	1.6%	0.2%
手足口病	6.6%	14.8%	2.1%	0.0%	1.3%
伝染性紅斑	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%
突発性発しん	13.5%	5.1%	0.1%	0.0%	0.0%
ヘルパンギーナ	1.2%	2.6%	0.7%	0.8%	0.0%
流行性耳下腺炎	0.0%	0.1%	1.6%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	17	62	29	16	22	79	45	22	146
RSウイルス感染症	346	296	356	639	36	642	995	36	1,673
咽頭結膜熱	47	41	60	74	23	88	134	23	245
A群溶連菌咽頭炎	65	64	52	44	8	129	96	8	233
感染症胃腸炎	1,407	1,471	881	1,836	196	2,878	2,717	196	5,791
水痘	54	22	10	21	12	76	31	12	119
手足口病	268	314	257	231	39	582	488	39	1,109
伝染性紅斑	5	0	1	1	1	5	2	1	8
突発性発しん	166	85	76	145	11	251	221	11	483
ヘルパンギーナ	46	64	38	35	16	110	73	16	199
流行性耳下腺炎	9	14	3	4	0	23	7	0	30
計	2,413	2,371	1,734	3,030	342	4,784	4,764	342	9,890
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	22	7	60	4	0	29	64	0	93
計	22	7	60	4	0	29	64	0	93
細菌性髄膜炎	0	2	2	0	0	2	2	0	4
無菌性髄膜炎	0	1	0	2	0	1	2	0	3
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	1	0	0	1	0	1
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	3	2	3	0	3	5	0	8
性器クラミジア感染症	44	110	15	78	0	154	93	0	247
性器ヘルペスウイルス感染症	11	14	6	25	0	25	31	0	56
尖圭コンジローマ	4	14	3	11	0	18	14	0	32
淋菌感染症	6	41	2	10	0	47	12	0	59
計	65	179	26	124	0	244	150	0	394
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	146	82	74	79	4	228	153	4	385
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	17	0	0	0	17	0	0	17
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	146	99	74	79	4	245	153	4	402

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	1.21	4.43	2.64	1.60	3.67	2.82	2.14	3.67	2.65
RSウイルス感染症	38.44	32.89	50.86	106.50	12.00	35.67	76.54	12.00	49.21
咽頭結膜熱	5.22	4.56	8.57	12.33	7.67	4.89	10.31	7.67	7.21
A群溶連菌咽頭炎	7.22	7.11	7.43	7.33	2.67	7.17	7.38	2.67	6.85
感染症胃腸炎	156.33	163.44	125.86	306.00	65.33	159.89	209.00	65.33	170.32
水痘	6.00	2.44	1.43	3.50	4.00	4.22	2.38	4.00	3.50
手足口病	29.78	34.89	36.71	38.50	13.00	32.33	37.54	13.00	32.62
伝染性紅斑	0.56	0.00	0.14	0.17	0.33	0.28	0.15	0.33	0.24
突発性発しん	18.44	9.44	10.86	24.17	3.67	13.94	17.00	3.67	14.21
ヘルパンギーナ	5.11	7.11	5.43	5.83	5.33	6.11	5.62	5.33	5.85
流行性耳下腺炎	1.00	1.56	0.43	0.67	0.00	1.28	0.54	0.00	0.88
計	268.11	263.44	247.71	505.00	114.00	265.78	366.46	114.00	290.88
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	7.33	2.33	30.00	2.00	0.00	4.83	16.00	0.00	9.30
計	7.33	2.33	30.00	2.00	0.00	4.83	16.00	0.00	9.30
細菌性髄膜炎	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	0.67	1.00	0.00	0.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	2.00	0.00	0.33	1.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	0.00	1.50	2.00	3.00	0.00	1.00	2.50	0.00	1.33
性器クラミジア感染症	14.67	36.67	7.50	26.00	0.00	25.67	18.60	0.00	22.45
性器ヘルペスウイルス感染症	3.67	4.67	3.00	8.33	0.00	4.17	6.20	0.00	5.09
尖圭コンジローマ	1.33	4.67	1.50	3.67	0.00	3.00	2.80	0.00	2.91
淋菌感染症	2.00	13.67	1.00	3.33	0.00	7.83	2.40	0.00	5.36
計	21.67	59.67	13.00	41.33	0.00	40.67	30.00	0.00	35.82
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	146.00	41.00	74.00	79.00	4.00	76.00	76.50	4.00	64.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	8.50	0.00	0.00	0.00	5.67	0.00	0.00	2.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	146.00	49.50	74.00	79.00	4.00	81.67	76.50	4.00	67.00